

會理の俗徒に示す 警策 詩

前車覆る處 後車驚く、警策怠る時禍必ず生ず、半醉半醒夜遊の客、鳥啼き月落ちて夜三更。(鳥を一に鳥に作る。)

詩歌吟詠全功を失す、天上人間軍陣の中、意舞醉歌して日を度るを休めよ、飛揚跋扈君が爲に雄。

亂に因りて坊城少納言に寄す 詩

當代の菅儒少納言、詩文の家業乾坤を動す、英雄亂世に風月を好む、長劔大弓主恩に酬ゆ。

拔舌の罪を懺悔す

言鋒殺戮す幾多の人、偶を述べ詩を題して筆人を罵る、八裂七花舌頭の罪、黄泉免れ難し火車の人。

亂裡 二首

國危うして家必ず餘殃有り、佛界身を退く魔界の場、時に臨む殺活衲僧の令、君看よ忠臣松柏の霜。
獨坐類に忙し、鵬晦の心、誰人か忠義此の時深き、曉天一睡枕頭の恨、

朝日三竿夢裡の身。(身を一に吟に作る。)

關東御上洛

虜軍萬騎已に東より來る、京洛の凱歌一曲催す、相坂の關門征駒の路、胡兒の性命馬蹄の埃。

姪坊の頌、以て得法の知識を辱しむ

話頭古則欺謾を長す、日用腰を折つて空しく官に對す、榮衛世上の善知識、姪坊の兒女金襴を着く。

日用

日用の正工夫、弓を挽いて東胡を射る、佛を殺し祖を殺す令、波旬途を失却す。(一本、挽を引に作り、三四句を「佛魔混雜底、邪法竟に扶け難し」に作る。)

祝聖

海内太平即ち現前、清風明月碧雲の天、萬年七百高僧の行、看よ看よ天龍正覺の禪。(一本、即を便に、僧を祖に、禪を前に作る。)

德政

衣を沾す、東の方都門を望み馬に信せて歸る、歸來池苑皆舊による。又曰く「夜半人なく私語の時、天に在りては比翼の鳥と作り、地に在りては願はくは連理の枝と爲らん」と。一天萬葉の君にして、女色に耽つたがため、遂に破滅の悲運にあふ、泥んや平人に於てなや、當に懲すべきなり。

① 鋪帳などと同じ。

② 酔ひ心地よきことなり。

③ 警策策勵すること、坐禪の時睡魔の襲ふを警策し、修業精進を策勵するなり。

④ 天上に生ずるも人間に生ずるも、恰も軍陣中に居るやうなもので、油断するととんだことが出来る。

⑤ 十二月三十一日の心、即ち懇懇なる心持ちをいふ。

⑥ 日出でて年三本ほどの高きに

上りたる時刻の意にして、即ち午前八時頃日稍々上りてよりのこと。時に曰く「日出でて三竿春露消す」と。

⑦ 年分行事の一、月分行事の一。今上天皇陛下の聖壽無窮を祝禱する法要の稱なり、禪院にては毎月の朔望、又元旦、聖節の早晨などに、合山の大家出頭して之れを嚴修す、香華、湯燭を今上の御前に虔備し、同音に大悲呪、消災呪を誦誦し、維那、祝聖回向文を稱へて式を終ふ。

賊は元來家の貧しきを打せず、孤獨の財萬國の珍に非ず、道ふことを信す禍は元福の復する所、青銅十萬靈神を失す。「復する所」を一本「伏する所」に作る。

亂裡工夫

毎朝高く叫んで甚だ忙々、敵を受けて機先八方に當る、觀法坐禪日を度ることを休めよ、但だ須らく勤めて跋扈飛揚すべし。「甚だ」を「太だ」に作る。

泉涌寺雲龍院、後小松の院廟前の菊

① 衰龍錦袖碧雲の天、② 叡信す宗門列祖の禪、生鐵鑄成す黃菊の意、秋香未だ老いす玉塔の前。(香を一に光に作る。)

日課

如法如說訥僧の眼、經誦讀誦百千返、三百六十日課の前、風雨雪月艶簡を吟す。「經誦」を一本「經咒」に作る。

太平正工夫

天然胡亂の正工夫、昨日の聰明今日の愚、宇宙の陰晴變化に任す、一回斫額して天衢を望む。

亂世正工夫

丈夫須らく正見を具すべし、諸の妄想境に隨つて現す、馬は問ふ良馬なりや無厩やと、人は答ふ此の刀

① 秋の景と兼れて雲上のことをいふ。
② 後小松の院の臨濟の宗旨を仰信仰遊ばされたるをいふ。

利劍と。

少欲知足 二首

千口も多からず富貴の愁、家貧しうして甚だ苦む一身も稠しと、涓水の鯉魚斗水の望、明朝臘扇廣河の流。(涓を一に漏に作る。)

果滿の羅漢も三毒有り、純一に少欲知足を願ふ、無衣の貧病相治むることを得たり、山堂一夜 促織を聞く。

惡行衆生の贊

惡を行する衆生惡と與に亡ぶ、善人の壽命は自然に長じ、十人七八箇は滅卻す、長く祝す當今千歲昌なるを。「長く祝す當今」を一に「今上帝皇」に作る。

① こほろぎ、又ははたおりのいふ。秋蟲。附脱の句に「秋夜促織鳴く。」古諺に「促織鳴いて嫩婦驚く」と。
② 一休自らいふなり。

習心

一晝夜八億四千、念々不斷自ら現前、閻王は許さず詩の風味、夜々の吟魂雪月の天。

自戒

罪過彌天 ① 純藏主、世に許す宗門賓中の主と、禪を説いて人に逼る詩格の工、無量劫來惡道の主。

愛念盟 二首

婆子慈明老師に侍す、婚姻脚下紅絲を結ぶ、^①驪山の春色三生の睡、千歳海棠の花一枝。恩愛の紅塵誰人か掃はん、娘生の赤肉父子の道、^②羅睺羅箇の歡喜丸、携へ來つて直に釋迦老に授く。

地獄 二首

十方世界盡乾坤、水火寒温人の命根、看よ看よ米穀閑田地、是れ衆生の地獄門。(田を一に用に作る。)

黄泉の境界幾多か勞す、劔は是れ樹頭山は是れ刀、^③朝打三千暮八百、目前は獄卒眼前は牢。

冬夜螢火、和州紀州兩國の際、山野に充滿す、因つて禪詩二章、以て之れを祝すと云ふ。

螢火陽を争ふ智と愚と、衆生の定業佛も扶け難し、一天の星斗皆北に朝す、帝業南方一點も無し。

満山の螢火諸人看る、兇事南方也た太だ難、憐む可し貴賤共に自ら滅するを、廢北の秋風冬夜寒し。(「太だ難」を一に「大難」に作る。)

寒夜雪山の鳥を嘆す

朝奈の公案晚來吟す、食を求め巢を忘じて前業深し、晝夜人々雪山の鳥、無間の苦痛月沈々。

孤獨老人の多欲を嘆す

千古多きこと無し富貴の時、青銅十萬阿誰にか譲る、必定後生は三惡道、老人何事ぞ前知せざる。

相對

二月涅槃寂滅の辰、一刀兩斷也た心身、不生不滅佛も得難し、^④花約有無相對の春。(斷を一に段に作る。)

亂中の大嘗會

當今聖代百王の蹤、玉體金剛平穩の容、風吹けども動せず五雲の月、雪壓せども摧け難し萬歳の松。

各見不動(一本「各見同じからざる偈、道心者と無道心者とに示す」に作る。)

水は流る ⑤四念不同の心、佛界魔宮古今に亘る、寒窓の風雪梅花の月、酒客は盃を弄し詩客は吟す。(「風雪梅花の月」を一に「雪月五更の燭」に作る。)

敬つて 天子の塔下(の)に上る 二首

財寶米錢朝敵の基、風流兒女相思ふこと莫れ、扶桑國裡安危の苦、傍に思臣有りて心絲を亂す。

乾坤海内烟塵起る、昨夜東風四隣に逼る、禍は復す美人身上の事、榮華悔

①京兆府昭應縣、本新豐といふ、宮あり、驪山の下にあり、貞觀八年に置く、咸亨二年始めて温泉宮と名づく、天寶六載温泉宮を改めて華清宮といふ、唐玄宗貴妃と共に幸する所。
②釋尊の實子、佛十大弟子の一、密行第一と稱す。
③朝打三千暮打八百、朝から晩まで打ち續くること、三千、八百、大数を現すのみ。

④花咲き花落つるをいふ。
⑤天皇御即位の後、はじめて行はせらるゝ新嘗の祭、祭場を大嘗宮といひ、左右に悠紀、主基の兩殿を設け、豫め指定したる國郡より奉れる新穀を捧げ、天地神祇を祭られせ玉ふ。
⑥四念所、又は四念住ともいひ、三賢位のうち念所の位に於いて修する觀法。身念住、受

ゆ可し馬嵬の春。

善惡未だ曾て混せず、世に善を爲す者は、皆舜を朋とし、而して惡を爲す者は皆桀に黨するなり。雉は必ず鷹の爲に撃たれ、鼠は必ず猫の爲に咬まる、是れ皆天賦前定する所なり。一切衆生の佛に歸して、善にして而して生死の淪没を免るる者も亦猶ほ茲の如し。因つて偈を作つて以て衆に示すと云ふ。「如し」を一に「若し」に作る。鷹雉鼠猫元自然、威音劫來舊因縁、照し看る。華清殘月の曉、明皇の龜鑑馬嵬の前。

過現未誰人か了達す、惡人は沈淪し善者は脱す、風流愛す可し公案圓かなり、徳山の棒分臨濟の喝。

風流の脂粉又紅粧、等妙の如來斷腸を奈せん、知んぬ是れ馬嵬泉下の魄、離魂の倩女扶桑に誦せらる。

身心定まらず假と真と、欲界の衆生苦辛に沈む、愁夢三生六十劫、劫空無色馬嵬の神。

君子の財

詩人の財寶は是れ文章、儒雅の乾坤日月長し、窓外の梅花吟興の樂、腸は寒し雪月曉天の霜。

貴人の財

龐老錢を棄つ誰か擧揚す、曾て玉斗を撞くも亦何ぞ妨げん、庭に梅花有り窓に月有り、鐵檠紙帳五更の霜。

日旗地に落つるを嘆す

錦旗日照して龍蛇を動す、聖運春長うして國家を救ふ、雷と化して五逆の輩を 踢殺し、誓つて朝廷の爲に惡魔と作らん。

亂に因つて

韓信昔年雲夢の殃、人心眞僞自然に彰る、安危定まらず箇の時節、人畜分ち難し荆棘の墻。

美色 傾城

幽王の上古今時に見る、一笑花顏烽火の姿、八熱八寒鬼窟裡、馬嵬辱井劫空の悲。

山名 金吾は鞍馬毘沙門の化身

念住、心念住、法念住。吾人が淨、樂、我、常の四顛倒の妄見を起す對象は、身、受、心、法の四法なり、今此の妄見を破せんがために、能觀の知を以て身は不淨なり、受は苦なり、心は無常なり、法は無我なりと觀す、別相念住位にては別別に之れを觀じ、總相念住位に於ては、すべて同一時に之れを觀す。

華清は驪山にある宮の名、唐の崔魯の華清宮の詩に曰く、「草は回磴を連つて鳴鑿を絶す、雲樹深々として碧殿寒し、明月自ら來つて還た自ら去る、更に人の玉欄干に倚るなし」と。即ち玄宗が貴妃の愛に溺れ、自ら天下を亂したる報の早きをいひて歎ぜし詩なり、明皇は玄宗皇帝をいふなり。

斗は酒を酌む七杓の類なり、

それを玉を以て作れるものをいふ。史記の項羽本紀に「玉斗一雙亞父に與へんと欲す」と。

燈火の臺架をいふ、又食器にもいふ。地理に「朝鮮の民飲食するに蓬豆を以てす」。師古の註に「竹を以てするを蓬と曰ひ、木を以てするを豆と曰ふ、今の檠也」と。

蹴殺すことはいふ。

妖美なる女をいふ。詩の大雅に「哲夫は城を成し、哲婦は城を傾く」と。

周の幽王、褒姒を愛す、褒姒は天下第一の美人なり、されど褒姒常に笑はず、當時天下、兵亂起る時は、所々に烽火を擧げ太鼓を打ちて兵を召す、褒姒之れを見て、始めて笑へり、幽王是れを喜び、事なきに數々烽火を擧ぐ、諸侯來るも寇なし、或時兎既起り

鞍馬の多門赤面顔、利生接物人間に現す、方便門を開く眞實の相、業は修羅に屬し名は山に屬す。

婦人多欲

美人寵を得美人の珍、珠玉靑鞋閣下の塵、秋は滿つ驪山宮樹の月、榮華悔ゆ可し馬嵬の春。

東坡 山谷 同體

海内の文章汝が面前、誰か知る鍛煉獨り天然、説法上堂法堂の上、如來禪と祖師禪と。

大應國師の賛 妙勝寺

大唐國禪師沒し、傳授明々たり東海の兒、一天の法窟妙勝寺、天澤の宗風更に誰か有る。

乙石御用人、妙勝寺の眞前に向ひ、髮置の賀頌(乙を)一に弟に作り、用を一に料に作る。

三歳の生年小女兒、終に吾が門の老比丘尼、壽算婆裙綿延の錦、櫻孩髮を垂れて絲よりも白し。

て幽王の都を攻めけるに、烽火を揚ぐれども、例の烽火の習として援兵來らず、遂に都傾きて幽王亡びたり。

①金吾は支那武官を稱するの語なり、吾は繁なり、金革を執りて以て非常を禦ぐなり」と、故に「業は、修羅に屬し、名は山に屬す」るなり。

②蘇老泉の子なり、宋の中世の文學者、東林常總禪師に參じて心要を得、曾て玉泉皓禪師の機鋒觸るるべからざるを聞き、之れを抑せんと擬し、即ち微服して見えんことを求む、泉、尊官の名を問ふ、公曰く、「稱」と、乃ち「天下の長老を稱する底の稱」と、泉囁して曰く、「且く道へ、這の一喝重きこと多少ぞ。」公對ふるなし、此に於て師禮拜す、後金山を過ぐ、公の照容を寫すものあり、公戯れに題して曰

乙石御用人、知客の寺に歸るを待つ(乙を)一に弟に作り、用を一に料に作る。

山徒に贈る

顯密天台妙樂の途、分明に傳教大師の徒、山猿叫落す西樓の月、七社の靈神帝都を鎮す。

不殺生戒

李廣將軍一片の心、多年の石虎誠情深し、人を殺す端的眼を眩せず、敢て忍ばんや燈前夜雨の吟。

不偷盜戒

鵝鳥珠を呑んで刑罰辛し、分別曲直偽と眞と、翠巖老漢眉毛の話、保福豈に家裡の人に非ざらんや。(分別を一に分明に作る。)

く、心は死灰の木に似たり、身は不繫の身の如し、汝が平生の功業を云ふ、黃州惠州瓊州と。後貶せられ、常州に卒す。

①黃山谷、儒家にして法を晦堂祖心に受く、一日晦堂に參ず、堂曰く、公の請する所の書中に兩句あり、仲尼の曰く、「吾れを以て二三子に隱せりとなすか、吾汝に隱すこと無し」と。其だ宗門のこと、恰好なり、公之れを知るや、谷曰く、「知らず。」時に晦堂、山谷と山行の次、天香、山に滿つ、堂問うて曰く、「木犀の香を聞くや。」谷曰く、「聞く。」堂曰く、「吾汝に隱すことなし。」黃山谷言下に大悟すと。

②一幀の内に東坡、山谷兩氏の畫若しくは畫を収むるをいふなり。

禪中の最上なるもの、具には如來清淨禪と稱す、即ち達磨正傳の禪に對する語にして、又は一行三昧と名づく、又眞如三昧ともいふ、是れ一切三昧の根本にして、よく念々修習せば、自修に漸く百千の三昧を得、達磨門下の轉々相傳するものは此の禪なり。蓋し圭峰禪師の清淨禪なるもの、未だ理に落ちて達磨正傳の禪を把握するものに非ずとす、如來禪の語に對し、祖師禪の語を生ずるに至れり。傳燈仰山の章に、「汝只だ如來禪を得て、祖師禪を得ず」と。以て其の消息を知るべし。

③達磨大師正傳の禪、然れども只だこれ開名目のみ、其の實如來祖師の別あるに非ざるは勿論なり。

④顯密は顯教及び密教をいふ、龍顯教は其の言顯然として、龍

不邪姪戒

姪坊の年少也た風流、^① 嗟吻抱持狂客愁ふ、妄に 樽蒲を聞はしむ ^② 李群玉、名は高し虞舜の 辟陽侯。

不妄語戒

一字不説道ふことを信せずや、大藏經卷已に 落草、^③ 瀧和元來截流の機、怪しい哉父少にし て而して子老ゆ。(少を一に小に作る。)

不飲酒戒

痛飲三盃未だ唇を濕さず、醉吟只だ慰す樂天が 身、稜道者念氣の處に任す、宣明酒伴也た誰人 ぞ。

南園殘菊

晚菊東籬衰色の秋、南山且つ對して意悠悠、三 隻三玄都べて識らず、淵明が吟興我が風流。

高野大師入定

生身大日覺王孫、出入神通活路門、迦葉惠持す長夜の魄、秋風春雨月黃 昏。

三毒

貪瞋の根本自ら痴愚、人我無明名利の徒、一箇無心の閑道者、近年林下 一人無し。

不殺生戒

全體作用鬼眼を透らしむ、勝負の修羅英雄の念、^④ 望帝一聲月三更、殺人 刀と活人劍と。

不邪姪戒 三首

痛飲誰が家の樓上の謳ぞ、少年の一曲心頭を亂る、阿難逆行姪坊の曉、 妙解の方便殘月の秋。

逆行の慈明婆子が身、紅絲脚下婚姻を結ぶ、一曲樓頭綠珠の笛、憐む 可し昔日趙王の輪。(結を一に絆に作る。)

沙門何事ぞ邪姪を行す、血氣識情人我深し、淫犯若し能く情識を折らば、

く衆生の機に應じて説きたる 教法なり、密教は眞言宗の如 き悠遠の教理を説く教ない ふ。

①空海の高野を開くと相前後し て、天台宗を比叡山延暦寺に 開く。

②李廣は漢の武帝の時、右北平 の太守に拜す、匈奴號して飛 將軍といひ、之れを避く、景 帝の時、驍騎將軍となる、後 匈奴を撃ち道に迷ひて、長吏 の責に遇ふ、廣遂に自殺す、 老壯ために皆涙を流すと。

③漢書に李廣人と爲り、援臂長 く、其の善く射る亦天性なり、 廣、出獵して罽中の石を見、 以て虎と爲し、而して之れを 射る、石に中り、矢を没す、 之れを見れば石なり、他日之 れを射、終に入る能はずと。 又楚の雄渠子、出でて礮石を 見る、以て伏虎となし、將に

去らんとして之れを射る、矢 其の衝に没す。或曰く、姜由 基疑石を見、以て兎となし、 之れを射れば矢、羽を飲むと あるに類す。心に依りて境の 變するをいふ。

④翠巖、夏末來に示して曰く、 「一夏以來兄弟の爲に説話す、 看よ翠巖が眉毛在りや」と。 後に保福曰く、「賊となる人、 心慮る。」長慶曰く、「牛ぞり。」 雲門云く、「關」と。翠巖夏中 過つて横説駭説す、法別立る に至り、眉毛脱落しする、果 して見得する者なし、心論り て已に然り、況んや身行に於 てをや。

⑤接吻、又はかまびすし等の意 に用ふ。

⑥博奕なり、ばくちなり。晉書 陶侃傳に「樽蒲は牧猪奴の戯 のみ」と、又一解に雙陸とも いふ。

⑦字は文山、潯陽の人、詩をよ くす、大中間、弘文閣校書郎 を授く、李群玉集あり。

⑧晉の陽陵國侯、水に溺れて死 し、大海の神となる、常に風 波を起して舟を覆すと。淮南 子に「武王紂を伐つ、孟津を 渡る、陽侯の波、流に逆ふて 撃つ」とあり。其の溺るゝ恐 るべきをいふか。

⑨泡沫に同じ。

⑩陶淵明の詩に「菊を東籬の下 に採り、悠然として南山を見 る」と。

乾坤忽ち變じて黄金と作らん。(若を一に者に作る。)

自讚毀他戒 三首

魔王の眷屬没商量、得失是非幾斷腸、^①前他後我如來の願、前後の工夫三會長し。

五逆聞雷臨濟の訣、大慈大悲太だ親切、活人劍兮殺人刀、人を汚さんと欲して満口に血を含む。

誰と共にか正に歸し邪を破ることを修めん、若し情識に非ずんば又何の過ぞ、這般の作略子細に看れば、座主の見知還つて作家。(一本「坐主の見知還つて作處」に作る。)

誹謗 三寶戒

杜撰の飯袋惡禪和、^②壑に塞り溝に滿ちて國家を亡ぼす、歸依佛法僧の檀越、閑に看る世間殘照の斜なるを。

人境懷古

境は無心なり、燈籠露柱、人は辨別す珠玉塊土、一夜五十年前の吟、青塚の殘月巫山の雨。

兩片皮復た一具骨、烏蟲馬牛更に魔佛、混沌未分暗昏昏々、雲月は知んぬ誰が爲の風物ぞ。

倭國營喩を以て實と作す

① 聖帝は蜀魂のこと、杜鵑をいふなり。

② 自己渡らんとすれば、先づ人を渡せよの意なり。

③ 佛法僧の三をいふ。

④ 惡禪師の多きことをいふ。

⑤ 古佛露柱に交はるといふに同じ。

⑥ 兩片皮は口をいふなり。

勘辨邪に入つて毒氣深し、元君子に非ず小人の心、暗に營喩を認めて實會を作す、苦衣雲帶樂天が吟。

今時日用誰人か道ふ、佛祖を超越す是れ野老、這般の輩法中の畜生、胸襟愚にして荒草を鋤かず。

異類中行

異類馬牛中行の途、^①洞曹瀉仰正工夫、愚昧の學者錯つて領解す、看來れば正に是れ畜生の徒。

井

高下互に看る氷輪を打するを、^②消僧轆々機輪を轉す、安禪出定清華の曉、汲み盡す天邊月一輪。(氷を一に水に作る。)

西江を汲み盡して公案圓かなり、工夫管せず深泉に溺るゝことを、寸繩を借らす千尺の底、西來の祖意爲人の禪。

山居

孤峯頂上出身の途、十字街頭向背の衢、空しく聞く夜々天涯の雁、^③郷信の封書一字も無し。

榮街の徒に示す

人家の男女魔魅の禪、室内に徒を招いで玄を悟らしむ、近代癡人の願養

① 洞曹は曹洞をいふ、詩の平仄により字を代へたるのみ。

② 龍羅居士、馬祖に云ふて曰く、「萬法と偈たらざる者、これ什麼人ぞ。」祖曰く、「汝が口に西江の水を吸盡するを待つて、汝に向つて道はん」と。

③ 居士言下に大悟す、此の意をとるなり。

④ 普漢の蘇武、雁の足に書をつけて故國に放つ、時の昭皇帝

叟、彌天の罪過獨り天然。

譬を認めて實と作す（譬を一に喻に作る。）

野老劫來日用今、私車の公案晴陰を誤る、昨夜窓を打つ零落の葉、蕭々として聽いて雨聲の吟を作す。

山中に藥圃を開く

錢を要め藥を賣つて琴を修めず、度世の工夫貪欲深し、山堂の夜雨風流の榻、自ら絶つ松風閑道の吟。

邪姪僧に示す

銀燭畫屏殘月の曉、錦茵甲帳落花の春、生身若し火坑に墮在せば、花顔玉貌也た何人ぞ。

少年の道心老來失す

五十年前大道心、來生未だ隔てす已に今を忘す、朝に得て夕に死す立地佛、一旦心を廻らせば百煉の金。（廻を一に依に作る。）

悟徹を失却して總べて閑事、去劫來劫又此の如し、金鑰正邪佛も分ち難し、聞説らく佛魔一紙を隔つ。

の上林苑に幸ありし時、雁の足に文の付きたる、帝の傍に下り來る、之を取つて見、蘇武の書の細々しき誠忠の程、伺はさせられて、やがて歸國叶ひ、元の官に復しけりと。故に音信を一に雁書ともいひ、そのむかしを偲ぶなり。

◎宗顯髮叟禪師をいふ、一休自ら榮街を標し、其の罪を謝するなり。

◎黃髮禪師參學の頃、觀音齊安國師の會下に在つて首座となる、時に宣宗皇帝未だ位に即かず、甥の武宗に逐はれ、香巖に就き沙彌となり、鹽官の會下に在りて書記となり、黃髮と連單なりき。一日黃髮佛殿にありて禮拜す、書記即ち問ふ、「佛に著いて求めず、法に著いて求めず、僧に著いて求めず、長老叟を用ひて何かせん」と。黃髮乃ち書記に答

◎黃髮佛を禮するに題して、榮街の徒に示す 二首

佛を禮す家風眞の作家、作家汝榮街の誦訛、食を奪ひ牛を驅つて伎倆を成す、米錢の名利他を賺過す。

閑老面前尤も苦なる哉、飯錢今日急に還し來る、話頭は古則商量の價、棒喝は邪師度世の財。

臨濟曹洞座主各末後の句 二首

大死底の人心塊土、元來是れ燈籠露柱、變易分段只だ任他あれ、新月黃昏五更の雨。（變易を一に編譯に作る。）

平生の信施涅槃堂、暮に天台に往き南岳は朝、世間に公道たるは只だ病苦、貴人身上も曾て饒さず。（一本、涅槃堂を涅槃消に作り、只だを唯だに作る。）

慧日僧愛有り

一段多情栗棘の愁、回光返照心頭を晦す、工夫長養怠ることを得ず、動靜起居春又秋。

◎法然上人を賛す

法然傳へ聞く活如來、安坐す蓮華上品臺、智者をして尼入道の如くならし

ふ、「佛に著いて求めず、法に著いて求めず、僧について求めず、常に禮することは是の事の如し」といひをはりて、書記を一掌す、書記曰く、「大龜生」と。髮曰く、「這裏是れ什麼の所在ぞ、細と解き處と説く。」更に亦一掌す、求めずして自然に至るの道なり。

◎自己の光明を回らし、返つて自己の脚下を昭著ならしむる意、自己反省、照顯脚下に同じ。道元禪師の普觀坐禪儀に曰く、「須らく言を尋れ、語を逐ふの解行を休すべし、須らく回光返照の退歩を學すべし。」

◎源空、圓光大師と説す、年十五、功德院皇圓阿闍梨について法を修む、建曆二年正月二十五日、念佛稱名裡に睡るが如くに寂す。

◎伎倆と口吻と並行せざるをい

む、一枚の起請最も奇なる哉。

作家 二首

臨濟徳山作家に非ず、棒頭喝下師の誇るに任ず、笑ふに堪へたり 伎倆と鼻孔と、照し看る高低日影の斜なるを。(低を一に昇に作る。)

忍辱仙人常に不輕、道心は須らく是れ凡情を盡すべし、慙麼白淨眞の衲子、勤む可し觀法又看經。

傀儡

抽牽は即ち主人公、地水合成して火風に隨ふ、一曲の勾欄曲終つて後、本然大地忽ち空と爲る。

洛陽火後

寒灰充塞す 洛陽城、二月花に和して春草生ず、黄金の宮殿依然として在り、勅下つて千秋萬國清し。

文章を嘲る

人は具ふ畜生牛馬の愚、詩人は元地獄の工夫、我慢邪慢情識の苦、嘆すべし波旬親しく途を得ること

ふ、日影斜なれば低きも高き影に似たり、中天に沖する時、正に作家の態度を見るべきなり、僞物は御免で御座るといふ意。

①人形使なり、古人謂ふ、人世は本一傀儡なり、捲舒自在一絲亂れず、根蒂手にあり、其の場中に於て騰出すしと、然して一曲終つて老幼男女一時に空となる、又人生一夢の如し。

②唐の都する所、後唐の滅ぶると共に、其の池塘竹樹は兵車に蹂躪せられ、高車大轡は烟火の爲に焚燼し、化して灰燼となる。

傑作の詩文金玉の聲、言々句句諸人驚く、閻王豈に雅頌の妙を許さんや、鐵棒恐る可し鬼眼睛。(一本「諸人」を「詩人」に作り、「恐る可し」を「應に惶るべし」に作る。)

元本無明(一本、本を來に作る。)

法塵習着想思を奈せん、李杜蘇黃が音律の詩、弓影客盃元字脚、生身地獄に入る矢の如し。

譬喩を破して病僧に示す

弓影膏肓酒中に在り、毒蛇影落つ客盃の弓、楓林の黄葉蜀江の錦、染め得たり心頭滿目の紅。

利欲名を忘る

利欲の農夫商女の情、交を絶つ美譽と芳聲と、梅花雪月我が事に非ず、米錢を貪着して名を忘卻す。(我が事に非ずを「昔年の事」に作る。)

賣弄深く藏す貪欲の心、心中密々に黄金を要む、詩情禪味風流の譽、秋思春愁雲雨の吟。

色に耽つて徳を喪す

酒伴詩僧久しく交を絶つ、獨吟月影松梢に滿つ、楚臺の愁夢是れ我が業、杜牧味清し姪色の嘲。(一)

①雅頌の妙を以て、閻王の苦を免れんや。
②李白、杜甫、蘇東坡、黄山谷をいふ。
③病膏肓に入れば治せずと。盃中の弓影、毒蛇と觀する、已に迷妄の裡にあり、楓林の紅葉も見様にて蜀江の錦に同じ、病は心からである、之れを無形に治せば、効有形に現はる。
④漢書に、楚は牽花の臺を起して黎民散すと、即ち其の女色に耽るをいふなり。

本、愁を秋に作り、味を味に作る。

偶作

患は是れ衆生良薬の訣、祖病機に當る臨濟の喝、琴臺の暮雲茂陵の吟、五十年來相如か渴。

我れ唯だ一息出入有り、日面月面左右を忘す、釋迦老師大覺尊、祖病の治得牛乳を用ふ。

室内の閑吟一盞の燈、自然に道無し箇の一僧、愁人春興猶ほ寒夜、袖裡の花牋梅萼の水。

頌

暫時此の地に精魂を弄す、臨濟の後身祖門を興す、美譽芳聲世間の外、

五雲天上月林の孫。

元 日官軍の凶徒を破るを賀す

元 正先づ豪を破る、處々凱歌高し、百萬朝廷の卒、一毛を損する能はず。

偶作

慧命微々として一絲を懸く、分明なり臨濟正傳の師、識情名利山林の客、夜々の秋風枕上に吹く。(客を一に害に作る。)

睡裡の海棠春夢の秋、明皇の離思獨り悠々、三千の宮女情思し難し、更に馬嵬泉下の遊を逐ふ。(逐ふを一本に遂ぐに作る。)

懷古

愛念愛思胸次を苦む、詩文忘却して一字無し、唯だ悟道ありて道心無し、今日猶ほ愁ふ生死に沈まんことを。

十年愛に溺れて文章を失す、是れ行に非ず天然即ち忘す、翰墨再び論ず近年の事、輪廻斷じ盡す隔生の腸。(非を一に不に作る。)

警策

苦なる哉色愛太だ深き時、忽ち忘卻す文章と詩と、前知せず是れ自然の福、猶ほ喜ぶ風音の所思を慰するを。

夢は熟す巫山夜々の心、蘇黃李杜好詩の吟、若し淫欲を將つて風雅に換へば、價は是れ無量萬兩の金。

迷悟

無始無終我が一心、不成佛の性本來の心、本來成佛佛の妄悟、衆生本來迷道の心。

點頭石に題して 虎丘祖師を訝る

道ふことを信せず石點頭すと、若し點頭せば石の流に非ず、石靈有らば是れ妖怪、吾が祖師の老虎丘。

⑤ 馬祖、病中のこと前に見ゆ。
⑥ 五雲は五色の雲、青黃赤白黒の雲をいふ。

② 筆蹟に同じ、宋史に、特に翰墨に妙に、沈著飛翥、玉獻の筆意を得たりとあり。
③ 迷悟、凡聖、佛衆生不二を説くなり。
④ 南岳十五世の孫、圓悟克勤の法嗣、大慧宗杲の法眷なり、克勤下の踰足なり。

成佛を行せず

天然の釋迦彌勒、六々元來三十六、達磨九年佛六年、成佛作祖精力を盡す。

書籍を焼く僧に示す

始皇自然に邪正を辨す、波旬の餘殃掌を看るが如し、看よ看よ 劫火洞然の時、書籍金剛不壞の性

樹下石上の茅廬、詩文疏鈔同居す、囊中の遺藁を焚かんと欲せば、先づ須らく腹中の書を忘るべし。(遺を一に道に作る。)

名に耽る僧に示す

腹中に地獄成る、無量劫の識情、野火焼けども盡さず、春風草又生す。

南北東西量る可からず、扶桑粟散國の封疆、名に耽る愚鈍畜生道、望帝一聲聽いて斷腸。

金鳥玉兔籠中を照す、百億の須彌碧空に逼る、香水無邊四大海、畜生無始又無終。

弄業文筆の僧に示す

苦樂愛憎影と身と、寒溫喜怒境と人と、平生の吟興黃泉の路、地獄の

門前桃李の春。

戦死兵を弔す

赤面の修羅血氣繁し、惡聲震動して乾坤を破る、鬪争負くる時頭腦裂く、無量億劫の舊精魂。(争を一に諍に作る。)

偶作

我れ本來迷道の衆生、愚迷深き故に迷ふことを知らず、縦ひ悟る無しと雖も若し道有らば、佛果天然立地に成らん。

心は萬境に随つて轉す

今日佛心猶ほ未だ生せず、衆生界地獄先づ成る、萬機萬境皆情識、轉處能く幽なり劍戟城。

佛魔一紙

聖凡萬里郷 關を隔つ、清淨の沙門塵事の間、殘雪殘梅窓外の月、吟中猶ほ劍樹刀山のごとし。

姪欲を以て詩文に換ふ

衆寮及第す大雄尊、著述の佳名我が命根、愁夢未だ修せず雲雨の約、君恩猶ほ喜ぶ吟魂を費すことを。

頌

國譯狂雲集 下巻

八七

比す、眞の書籍は火位では燒けぬ。

①金鳥は日、玉兔は月の異名。

②平生の吟興は黃泉に行く道の様で、地獄の門前迄は桃李の春である様であるが、定所に行けば地獄の本然が現じて、牛頭馬頭の苦に逢ふこと必然なりと。

③大聲叱呼、乾坤を裂く、よし一頁血に塗るとも其の精魂永劫滅せず、照々として護國の鬼となる。

④秦の始皇、丞相李斯の言を用ひて、醫藥卜筮種樹に關する書の外、皆之れを集めて焚き、然して天下の民を愚にして、上の政を議するなからしめたり、然れども遂に波旬の餘殃掌を返すが如く、萬々代と豫想したりし帝業も、項羽が一火の爲に東籬の春雪の如く消え失せぬ。

⑤僧、大隨法眞禪師に問ふ、劫火洞然として大千俱に壞す、這箇壞が不壞か。師曰く、「壞」と。此の世界の滅する時、大火ありて、壞する時はいふ、これを又臨命終の時に

萬端を忘卻して詩未だ忘せず、半生半死涅槃堂、黄泉路上此の吟興、閻老宮前後悔の腸。

妙莊嚴王品を見る

妙莊嚴昔日の因縁、瞎禿の道光我が前に輝く、閻老は吟せず玉塔の月、黄泉は後悔碧雲の天。

常不輕菩薩を禮す

記得す昔年の常不輕、惶るべし血氣衆生の情、看よ看よ火宅脚跟下、滿目無間獄の大城。(跟を一に痕に作る。)

忍辱仙人

須らく成すべし 忍辱波羅密、是れ如來の甚深秘密、心火燒盡す菩提の根、阿修羅王佛日を滅す。

圓悟大病

涅槃堂の理言詮を絶す、棒喝機關法座の禪、睡裡の花顏猶ほ醉眼のごとし、春風腸を斷つ海棠の前。

巫山夜々夢驚き難し、艶簡詩を題して鐵槩に對す、只だ檀郎が爲に小玉を呼ぶ、風流愛すべし美人の情。

狹路の慈明色欲の姪、庭前の柏樹祖師の心、惡魔臨濟正傳の境、雲暗う

① 金剛經に曰く、「須菩提、忍辱波羅密は如來忍辱波羅密に非らずと説く、何を以ての故に須菩提、我れ昔歌利王の爲に身體を割截せらるゝが如き、我れ其の時に於て、我相も無く、人相もなく、衆生相もなく、壽者相もなし」と。畢竟空、我、人なし、誰か加へ誰か忍ばん、故に又非忍辱波羅密といふ。
② 僧、趙州に問ふ、「如何なるか、是れ祖師西來の意、州曰く、「庭前の柏樹子」と。
③ 月の異名。淮南子に「羿、不

して 姮娥玉簪を落す。

娘生佛果已に圓成、大病苦中識情無し、小艶詩情人會せず、雞聲茅店月三更。

宗祐老僧を弔す

宗祐僧牛誰が面門ぞ、本來の心乾坤に逼塞す、獨り眞前に向つて謹んで命を乞ふ、要須す祐老が幽魂を弔せんことを。

宗祐老僧を弔する頌の韻を和す

或は僧形と成り或は馬牛、曹溪の滴水百川の流、南山の吟興東籬の菊、花は綻ぶ三玄三要の秋。

江口の美人勾欄の曲に題す

見色聞聲吟興長し、明心悟道沒商量、愁人は識らず 普賢の境、樽前に歌吹して總べて斷腸。(一本、三四句を「愁人識らず普賢の處、洞山の三頓徳山の禪」に作る。)

泉涌寺の僧棒を行す

八稜八尺長天に倚る、拈起して秋山が面前に向ふ、袈子機に當つて手を拱く處、洞山の三頓徳山の棒。

死の藥を四王母に請ふ、姮娥竊みて以て月に奔る」と。姮娥は羿の妻なり、奔りて月の精となる。
① 釋尊の右の脇士にして、慈悲を用り、身は月色のごとき、右手に金剛杵を持し、左手に金剛鈴を執り、五佛の寶冠を頂き、六牙の白象に乗る、利他大慈悲の行を願とし給ふ故、大行普賢菩薩ともいふ。
② 一本此の一首なくして、別に「南都律僧の殺人刀」と題して、「吹毛匣を出づれば機輪を轉す、坐斷す祖門三要津、持戒律僧の活手段、太平の天下波旬没し」とあり。

偶作

餓鬼苦多し也た畜生、人家魔魅凡情を長ず、飢渴病苦、五噎の患、邪師の知識野狐精。

鳩鹿狐懺悔

麋鹿の生涯猛獣の愁、鳩は姪欲に因つて心頭を苦しむ、四時愕々難し此の愁夢、一枕の清風夜々の秋。
(清を一に西に作る。)

除夜

金吾除夜に山名を殺す、此れより黄泉幾路程、太平の天子東西穩、九五青雲客星無し。(殺を一に死に作る。)

圓相

誰か參す 鴻仰一宗の禪、圓頂の沙門心豈に圓ならん、剃頭の外道情識を長ず、定めて魔王と惡縁を結ばん。

生死輪廻恰も環に似たり、人々這の最後の牢關、寸步移さず脚跟下、生身二鐵圍山に墮す。(脚跟下を一に脚痕不に作る。)

圓成公案風流を愛す、逆行の機關鴻仰の籌、愁殺す樽前夜遊の客、美人一曲玉樓の謳。
佛祖を禮し、福力を禱る僧に示す

① 羈客恨多し天地人、恐なる哉鬼窟の舊精神、元來諸法縁に因つて起る、風月沈吟一箇の貧。(因を一に從に作る。)

食籍

飯縁食籍聊か茶湯、竹は菊籬を縛し梅塙を補ふ、人間の世諦盡く餓死、地獄遠離して安樂長し。

近侍の美妾に寄す

淫亂天然少年を愛す、風流の清宴花前に對す、肥えたることは玉環に似たり瘦せたるは飛燕、交を絶つ臨濟正傳の禪。

僧の行脚を送る

參禪學道玄を扣く人、世界の蒲鞋脚下の塵、象骨の老師三九の旨、常に飯頭と成つて心身を苦しむ。

桃花を見る圖

見處風流悟道の心、桃花の一朵價千金、瑤池の王母春風の面、我れは約す愁人雲雨の吟。

陣を開く 玄沙の法戰場、宗門の議論老禪の場、衲僧遊戯諸三昧、拄杖腰包桃李の場。

① 噎は咽喉ふさがる、又はむせぶをいふ。

② 麋は鹿の大なるものなり、なれしかともいふ。

③ 十二月三十一日、舊きとしを送り、新しき年を迎ふるなり、故に除夜といふ。

④ 五家七宗の一、鴻山靈祐及び其の法嗣仰山慧寂によりて鼓吹せられたる禪風なり。

① 旅客、羈旅の客に同じ、即ち羈絆せられて旅にある客をいふ。

② 雪峰義存禪師、三度、投子に到り、九度洞山に上りて、參學甚だ風むるも、緣遂に徳山に契ひ、其の法を嗣承す。善知識を求むるに汲々たるをいふ。

③ 雲棲桃花を見て悟道するに因りてしかいふ。

④ 西王母、漢の元封元年、武帝殿に降り、蟠桃七枚を帝に進めて、自ら其の二を喰ふ、帝其の核を留めんとす、母云く、此の桃世間有る所にあらず、三千年一實のみ」と。

⑤ 玄沙師備禪師なり。

香嚴擊竹

畫に對して忽然情識を盡す、道人の鬼鑑太だ分明、娘生佛南陽の境を見る、腸を斷つ黃陵夜雨の聲。昔帯を携へ來つて風塵を動す、看よ看よ聞聲 悟道新なり、半夜千竿竹の雨、南陽塔下精神を弄す。久しく響く香嚴一擊の聲、憐むべし悟道佳名を發するを、蕭々として耳に逆ふ竹扉の雨、滴盡す南陽塔下の情。

① 普明國師、百丈大智禪師の法を破る

夏を破す文殊宗旨の動、衲僧の三昧、商君に似たり、祖師大用現前の境、南嶽巫山一片の雲。

靈山微翁和尚百年忌

僧は運んで恩に酬ゆ妙勝の薪、靈山昔日涅槃の辰、二千四百年前の境、梅雨紅を流す五月の春。

② 妙葩、字は春屋、夢窓國師の法嗣、萬年山相國寺の開山なり。

癡兒伴を牽いて人前に出づ、人家を魔魅して常に禪を説く、龍寶の封疆幸に滅卻す、靈山の記蒨晴驢邊。

③ 衛鞅、刑名の學を以て秦の孝公に仕ふ。

陳蒲鞋 八首

老禪本鐵眼銅睛、是れ北堂慈愛の情にあらす、天下の衲僧脚跟下、宗門の潤色 綠蒲青し。(跟を一に痕に作る。)

④ 蒲鞋は便所の草履をいふ、蒲の葉、又は籜にて製したるものなり。黃檗希運禪師の法嗣なる睦州道隆禪師、曾て自ら草履を製し、道路に棄て以て行人に便せしといふ、俗姓

唯だ宗門零落の愁有り、錯り來る末法幾禪流、春風桃李吟に酒無し、尊宿の榮華蒲葉の秋。

陳氏なる故に、時人呼んで陳蒲鞋といふ。母の居る所、故に母の別稱とす。

黃衣の尊宿事如何、是れ當機手に信せて拏ふにあらす、三家村裏野老の業、棒喝の商量豈に作家ならん。(一本、二三四句を「作略猶は手に信せて拏ふるが如し、天下の衲僧師を識るや否や、岩頭船子風箏を着く」に作る。)

元來黃檗下の尊、臨濟師兄論を用ひず、佛法南方今地に落つ、北堂寂莫として吟魂を苦む。

真正の工夫變通に任す、達磨建立す佛心宗、雲南山に起れば北山は雨、夜來吹き過ぐ樹頭の風。

笑ふに堪へたり米山米錢無し、誰か參す尊宿織蒲の禪、衆生五欲八風起る、看よ看よ正邪今現前。

道を説き禪を談じて利名を長ず、工夫は亂裡に愁城を築く、門闔空しく折る 韶陽の脚、折り得たり

江湖門弟の情

米無うして米山名の下空し、宗門の玄要老禪翁、七寶莊嚴の富貴、平生氷雪又寒風。

歌林紹休侍者、攸を相し居を構へ、扁して傳正と曰ふ、因つて偈を作り、以て證し爲すと云ふ

宗門滅卻す法筵開く、狹路の慈明顛倒し來る、墻外は自然樵客の迹、風流愛す可し斷崖の梅。

再來隔生即忘

講經の居士喚んで誰とか爲す、彌勒當來の導師、爐鞴鈍鐵生鐵を出す、利劍鈍刀鐵知らず。

自然外道

大道廢る時人道立つ、智慧を離出して義深く入る、管絃歌吹人倫の能、風雨は世間之音律。聰明の外道本無知、精進道心幾時をか期せん、天然釋迦彌勒無し、萬卷の書經一首の詩。

地獄

三界無安、猶ほ火宅の如し、箇の主人公、瑞岩應諾す。

岩頭和尚

名は風流面は蠻胡、胡鬚は黒く也た赤鬚、舌頭は文殊に絶勝し、脚下は道儒を踏断す、天下の衲僧痴愚、邪法而今扶け難し、象骨老師の小巫、臨濟渡子同途、着々様を作し模を作す、頭々細に入り粗に入る、棹を横へて江湖を一撈す、江湖議論區々たり。

確頰に曰く

世間種々、叢公の圖、道伴知音一箇も無し、夜雨蓬窓江海の燭、宗門の零落工夫を盡す。

學林宗參庵主水葬

參禪學道關忽々、六十年來變通に任す、流水千江機輪轉す、閻浮樹下月弓の如し。

圓悟大師投機の頰の後に題す

新に題す小艶一章の詩、詩句の工夫誰に説向せん、殘生白髮猶ほ色に姪す、鬼眼閻魔是非を決せん。

四睡の圖

凡聖同居何似生、披毛作佛又た分明、今宵極睡清風の枕、空却以來松に聲無し。

運庵松源の衣を還して頂相を留む

這の三轉痛處の針錐、看よ看よ宗門句裡の機、爭奈せん石溪肩上の土、脱履を拾ひ來つて傳衣と號す。

弟子癖

臨濟大人の禪に參じてより、元字脚頭心念の前、即今若し我が門の客と作らば、野老の風流美少年。

自贊

分明に畫き出す、許渾が圖、吟じて徑山天澤の鬚を燃る、譽を嗜み名を求めて利を愛せず、風流寂莫たり一寒儒。

臨濟曹洞の善知識貪欲熾盛(貪を一に貪に作る。)

米錢膝下露堂々、辛苦沈淪す萬劫の腸、賊の智妨げす君子に過ぎたり、徳山臨濟没商量。

①雲門文偃禪師なり。
②瑞岩師彦禪師、磐石に坐して終日愚の如し、毎に自ら主人公と喚ぶ、復た應諾して乃ち曰く「惺々著」と、「他後、人の謾を受くること勿れ」と、此の奇行を以て一則の公案となすなり。
③老子の説ける虚無恬淡の學及び儒教をいふ。
④岩頭全藏禪師をいふ。
⑤印度の所在にある喬木にして、四五月頃花開き、深紫色の果を結ぶ。閻浮提州の北方に産す。

①履はわらぐつ、草履の類なり。
②唐の許渾が詩に曰く「高歌一曲明鏡を掩ふ、昨日の少年今白頭」と。蓋し此の意による。

辯

臨濟德山棒喝の禪、睦州の蒲葉齋公の船、左傳蠅屐一時に忘じて、是れ和嶠にあらす我れは錢を愛す。
(忘を一に志に作る。)

東坡像

竺土の釋迦文殊師、即今蘇軾更に看よ誰ぞ、黃龍の禪味舌頭の上、萬象森羅文と詩と。(殊を一に老に作る。)

偶作

臨濟の門派誰か正傳 風流愛すべし少年の前、濁醪一盞詩千首、自ら笑ふ禪僧禪を識らす。

抹香を嫌ふ

作家の手段誰か商量、道を説き禪を談じて舌更に長し、純老天然殊勝を惡む、暗に鼻孔を擧む佛前の香。

病僧に 五辛を與ふ

病僧の大苦傷風を發す、死脈頻々として命終らんと欲す、如來の新病牛乳を用ふ、忌む莫れ凡身藥草の葱。

①蘇老泉の子なり、字は子瞻、名を軾、東林常總禪師に參じて心要を得。
②大蒜、茗葱、蘭葱、興渠といひ、又は蒜薤、薤、葱、興渠なりといふ。楞伽經に一切葱、薤、蒜、薤、蒜、鼻穢不淨、能く聖道を障へ、亦世間淨處を障ふ、何に況んや佛の淨土をや」と。

久參の徒に示す

看經看教無間の業、應庵但だ許す白淨業、參禪學道閑話頭、懼るべし身口意の三業。

薄氷

但だ江海薄氷の池を看て、人々身上の危を管せず、憐むべし極苦目前に急なり、迷道の衆生終に知らず。(身を一に心に作る。)

金春座者の歌

唱へ得たり雲門王老の禪、朝には東土に遊び暮には西天、震旦の徑山上堂の後、建仁に鼓を撃つ法堂の前。(東土を一に東上に作る。)

岐岳和尚龍寶山住院の時、御前喝食を請ひ、看雲亭に於て夜々酒宴す。因に一休和尚相看す、岐岳、一休和尚に問うて曰く、「汝、老僧が境界に於て知る耶知らずや。」答へて曰く、「知る。」問うて曰く、「試に舉せよ看ん。」答へて曰く、「茂陵多病の後、猶ほ卓文君を愛するがごとし。」岳、大笑絶倒して、後に隨つて打つて曰く、「請ふ老僧が爲に無住勝を題せよ。」(勝を一に榜に作る。)

龍寶の禪翁活眼睛、孤明歷々蕞苴の名、黄金の詞賦文君が恨、師は笑ふ茂陵空薄の情。

高亭腸斷す夜參の僧、花前に歌舞して酒澆の如し、長老雲門塔下の逆、眞前の雲雨五更の燈。

③千光榮西禪師の開山なり。
④蜀郡臨邛の富人、卓王孫の女なり、新に寡にして音を好む、司馬相如、琴心を以て之れを挑み、遂に當らしめて之れを入る。
⑤水の名なり、酒量多きをいふ。

盡梅（一本畫梅に作る。）

目前の春樹孤山に屬す、上苑の一枝客の攀づる無し、七寶の青黃礪紅白、淡烟疎雨祖師の關。

自贊

大機大用總べて、絃膠、如法の作家清宴の筈、文君が絃酒相如が琴、終に薄情無頼の嘲を奈せん。（一本、絃を紋に作り、又琴を瑟に作る。）

文章禪話眞を知らず、未だ道流主賓を分つことを得ず、慚愧す永劫拔苦の業、筆頭一天の人を罵言す。（苦を一に群に作る。）

傍若無人閑逸の心、床下法塵の深きを奈何せん、夢聞の銀燭繡簾の月、白日青天笑つて朗吟す。

純老が佳名海東に發す、天源の派脈流を截つて通ず、徳山臨濟何の處にか在る、歌吹す夢聞殘曉の鐘。（鐘を一に鏡に作る。）

鱗を脱する鯉魚、庵中にして活するを得たり
活潑々の時池水清し、怪しい哉端的死中の生、天池に飛潛す衲僧が眼、雲は暗し龍門點額の情。

應無所住而生其心

祖師禪是れ如來にあらず、接物利生尤も苦なる哉、明歷々金剛の正體、百花春到つて誰がために開く。

念の起所を警む

公案の工夫暮と朝と、山堂夜々雨蕭々たり、地獄の猛火百萬劫、滿腹の詩情幾日か消せん。

念の起所を嫌はず

平生贏ち得たり蕙直の名、口に信せて言詮して群衆驚く、自賛毀他情識を長ず、乾坤江海我が詩情。
脚下の紅絲妻子の盟、驪山の私語三生を約す、良宵共に愛す夢聞の月、照し看る一聲望帝の情。

心念起所

三十年來江海の情、空しく吟す野水釣船の横はるを、偶然我れ 子陵が業に負く、興は詩に在りて 勳絶の名にあらず。

末後涅槃堂の懺悔

風韻氣象頌と詩と、興に乗する邪慢吟じて髭を撫る、惡魔内外吾が筆に託す、猛火獄中出期無し。
（韻を一に音に作る。）

艶簡艶詩三十年、虚名なり天澤正傳の禪、吟身半夜燈と興に瘦す、雲月風流白髮の前。

童子南詢の圖

①東方朔の十洲記に、風麟洲、風喙麟を以て膠を作る、續絃膠と名く、能く續絃を續ぐと、故に再び要を繋るについで續絃といふ、司馬相如、卓文君を娶り、後、還つて將に茂陵の人の女を聘して妾となさんとす、卓文君、白頭吟を作つて以て自ら絶つ、相如乃ち止むと。多情をいふなり。

②金剛經莊嚴淨土分第十に曰く、是の如く清淨の心を生ずべし、色に住しても心を生ずべからず、聲香味觸法に住しても應に心を生ずべからず、所住なくして而も其の心を生ずべし」と。即ち行じて無行の所をいふなり。

③漢の光武の故人、前に見ゆ。
④たへきれることなり。
⑤善財童子、南方五十三の善知識を尋ね廻らるゝなり。

知識 華嚴五十三、美人焦熱抱持の談、南方の佛法吾が事に非ず、腸斷す風流童子の參。(焦を一に勝に作る。)

紹固喝食

四歳の女兒歌舞の前、約深うして警めがたし舊因縁、恩を棄て、無爲の手段に入る、座主作家誰か是れ禪。

欽山禪師を賛す

佳名勲絶利貪稠し、茶店の美人誰か好仇、争か識らん洞山下の尊宿、慈明の狭路好風流。

上堂の茶話作家の禪、點檢し將ち來れば新婦の禪、錦帳香囊風起つて臭し、洞山の佛法是れ何の禪ぞ。

濟家の純老機生鐵、一條の活路途と轍と、雪峯岩頭眼睛無し、千歲達磨宗の敗闕。

尿床の鬼子大難の心、定老當機恩力深し、夜雨燈前都て即忘、風流の茶店舊時の吟。(都を一に渾に作る。)

今宵涙を拭ふ涅槃堂、伎倆盡くる時前後忘す、誰か奏す 還鄉真の一曲、綠珠恨を吹いて笛聲

長し。

龍翔門派の零落を嘆す

扶桑國裡禪師没し、東海の兒孫更に誰か有る、今日窮途限り無き涙、他時吾が道竟に何にか之かん。東海の兒孫誰か正師、正邪辨せず盡く偏に知る、狂雲が身上自屎臭し、艶簡封書小艶の詩。

或は儒者或は敎家の僧、人天大衆の憎を管せず、飛び來る蝙蝠暮堂の裡、怪しいかな無明を長じ法燈を滅す。

渡江の達磨

去々來々意に隨つて行く、乾坤萬里俗塵生ず、西天此土姓名重し、脚底脚頭蘆葉輕し。

三界

來往す生靈六道の街、修羅の鬪諍生涯没し、人間未だ諸天の樂を得ず、闕滅の娑婆事々垂く。餓鬼畜生菩提無し、劫空の法習吾が臍に徹す、無色の衆生涙雨の如し、月は沈む望帝一聲の西。

威音那畔本去劫、彌勒當來又來劫、依草附木の舊精魂、憐む可し三生六十劫。(去劫を一に空劫に作る。)

三界、又は三有といひ、衆生の生死輪廻する世界を分ちて三種となす、これを三界といふ。

華嚴經入法界品に出づ、故にいふ。
欽山文遠禪師、洞山良价の法嗣、一簇破三關の公案、蓋故に喧傳す。
濟家の純老は、臨濟宗家の一休といふが如し。
還郷は唐世の旅店より、涅槃の故郷に還るをいふ。

南坊に示す 偵

男色興盡きて妻に對して淫す、狹路の慈明逆行の心、容易に禪を説く能く口を忌む、任他あれ雲雨楚臺の吟。

制戒

貪り看る少年の風流、風流は是れ我が好仇、悔らくは錯つて爲人の口を開くことを、今より後誓つて舌頭を縮めん。(貪り看るを「貪着」に作る。)

① 泉堺の衆、交を絶つ

利に耽り名を好む天澤の孫、靈光失卻す大燈の門、梨冠瓜履人の疑念、伎倆機に當つて佛恩を報す。

參學の徒道心無し、紅紫朱色鎗に似たる金、忠言逆ふ可し人々の耳、牛馬面前空しく琴を鼓す。(紫を一に絲に作る。)

松源和尚

松源は 靈隱老師の禪、法を破り條を攀ぶ省數錢、囊中に我れ半文の蓄没し、狂客江山三十年(蓄を一に畜に作る。)

巡堂合掌又燒香、塵拂拈鉢木床に坐す、臨濟の正傳也た何の處ぞ、一休東海に愁腸を斷つ。

① 泉堺は泉州堺をいふ。
② 文選に「瓜田履を納れず、李下冠を整さず」と、人の疑を避くるなり、梨蓋し李を懸用するのみ。
③ 所謂馬耳東風なり。
④ 靈隱松源は靈隱に住す。

馬糞を拾ふて斑竹を修す

煨芋は 懶殘の舊話頭、名利を求めず太た風流、想思隙無し此君の雨涙を拭ふて獨り吟す湘水の秋。(残を一に山に作る。)

臨濟の畫像に對す

看よ看よ我が養ふ鳳凰の心、燕雀鳩鴉は山野の禽、臨濟は松を栽る一休は竹、三門の境致後人の吟。臨濟の宗門誰か正傳、三玄三要瞎驢邊、夢闍の老衲閨中の月、夜々の風流爛醉の前。

閻浮樹

閻浮樹乾坤に逼塞す、葉々枝々我が脚跟、太極梅開く紙窓の外、暗香疎影月黄昏

妙勝寺の竹木を剪る

官に在つて忘却す針を容れざること、妙勝の封疆樹林を剪る、立ちどころに商君胡亂の法を破る、去來跡没し一身の吟。

醉恩庵を退く

雲水江山我が脚跟、殿堂幸に一乾坤有り、常住物即ち私の車馬、醉恩の塔主恩を知らず。(即

① 懶殘は懶瓚和尚なるべし。
② 閻浮提州の北に高さ百由旬の大樹ありといふ、故に言をなす。
③ 醉は醜に同じ、薙名によつて言を立つるなり。

を一に便に作る。

禪門寶訓に云く、「圓悟、妙喜に謂つて曰く、「大凡そ舉措當に始終を謹むべし、終を謹むこと始めの如くなるときは、則ち敗事無し、故に曰く、初め有らずと云ふこと無し、克く終有ること鮮し。」昔晦堂老叔曰く、「黄檗の勝和尚、亦奇衲子なり、但だ晩年謬る耳、其の始めに得るを觀て、之れを賢と謂はず、云々」と。因つて偈を作り後に題すと云ふ。

もたげからめるをいふ。

鐘樓の叢今猛虎の途、衲子の金言臨濟の徒、擽弱與奪邪正を辨す、諸祖の當機一機に非ず。晦堂老痛處の針錐、隠し去れば彌々彰る惟勝の機、明眼の非は元來即ち是、一休が是は正に本來非なり。

但だ積翠庵の禪に歸依して、慚愧す狂雲名利の前、一夕一朝日月の蝕、終には分明なり白日青天。杜牧を賛す

杜書記獨朗天然、參得す正傳臨濟の禪、儒雅の家風一點無し、詩情淫色紫雲の前。(一本、參得を參禪に作り、儒雅を儒邪に作り、紫雲を紫雲に作る。)

參玄僧の名利を戒む 迷道の衆生劫外の愚、人々涙窮途を識らず、官に諛つて只だ願ふ佳名の發するを、眞の菩提心一點も無し。

參玄僧の智愚を戒む 大智元來迷道の愚、未だ聞かす小智菩提の扶なることを、一千の公案 繫驢櫪、學者は江湖飯袋の徒。

曹洞の惡見を毀破す 曹洞今時無分別、臨濟の受用と遙かに別なり、野老百姓眞の家風、曹洞臨濟受用別なり。

畫 三首

參禪九たび到り又三たび登る、明白洞然愛憎無し、橋上名利の路に通せず、羨み見る一錫一閑の僧。(見を一に看に作る。)

老漢知んぬ何の處より來る、高山の境と塔の 崔嵬と、水草心頭瘦牛の體、應身行脚天台を出づ。

① 瀉山來也目前の牛、戴角披毛僧一頭、異類甘んずるが如く一身靜かなり、三家村裡也た風流。(甘を一に耳に作る。)

四睡圖

老禪の饒舌笑中の愁、虎尾擲し來つて虎頭に跨る、月は元識らず 寒山の 意、夢は愕く清光萬里の秋。

① 驢を繫ぐ杭、杖の類をいひ、却つて羈絆となるをいふ。
② 巉峰、師を求むること前に見ゆ。
③ 石山の土を戴くをいふ。詩經の周南に「彼の崔嵬に陟れば、我が馬虺隤」とあり、また高人の貌、班固西都賦に「增盤崔嵬」と。
④ 喚んで水牯牛となさば、また瀉山僧某甲。前に見ゆ。
⑤ 唐の貞觀中、台州に住す、容貌枯悴、布襦零落、禪皮を以

聞聲悟道、見色明心、雲門拈して云く、「觀世音菩薩、鏡を持ち來つて胡餅を買うて、手を放下して曰く、「元來是れ餓頭と。」

垂示韶陽三句の禪、聞聲見色話頭圓かなり、胡餅餓頭誰か買ひ得たる、觀音三十二文錢。(一本、三十三文錢に作る。)

雲門は拈す見色聞聲、衲子の機鋒識情を折る、口に信せて道着する底の食籍、念頭起る處太だ分明。

臨濟和尚を賛す

喝々々々々、機に當つて殺活を得、惡魔鬼眼睛、明々として日月の如し。

杜牧

誰か記す慈明老漢の婆、無能の懶性癩蛇を呑む、工夫雪月吟魂冷し、閑に唱ふ桑間濮上の歌。(桑間を一に桑門に作る。)

宗門の活句 阿房宮、六國の興亡六國の風、筆海詞林何の似たる所ぞ、青天萬里月正中に中す。

洞山三頓の棒

這の棒頭宗門の大功、慈明の子是れ黃龍、明皇は識らず風流の道、今夜馬

鬼千歳の風。

人に遭つて罵辱して嗔情を長ず、是れ即ち其の迷道の衆生、無始無終黒山の下、無明の濁酒幾時か醒めん。

東福寺の荒廢を扶起す、蓋し美少年の舊交に因る、甲子十二(二)を一本三に作る。

看よ看よ慈楊禪の正傳、誰か來る純老面門の前、宗門の潤色風流の道、舊約忘れ難し五十年。

大慈は聖一是れ開山、魔宮を建立して五山を救ふ、東福派を分つ南禪寺、千歳猶ほ輝く慧日山。

慈楊塔

是れ平生好境の痕にあらず、任他あれ鶏足月黃昏、誰か氏ぞ風流我が盟約、馬嵬の青塚舊精魂。(一本此の一首なし。)

大慧武庫に曰く、「俗士有り、演に投じて出家し、自ら捨縁と曰ふ。

演曰く、「何をか捨縁と謂ふ。」士曰く、「妻子有り之を捨つ、之を捨縁と謂ふ。」演曰く、「我れも亦箇の老婆有り、還つて信するや否や。」士默然たり、演乃ち頰して曰く、「我れに箇の老婆有り、

て冠となし、大なる木屐を穿つ、時に國清寺に來り、衆僧の殘飯餘菜を得て食し、或は廊下に徐行し、或は叫喚し、空を望んで慢罵す、言を出すこと狂人の如くにして而も決して凡人の如くならず、閻丘公入つて禮拜し、文珠の再來なりといふに及んで、捨得と相携へて松門を出で去つて復た歸らず、其の業上に遺記せる辭頌、壁間の詩偈集めて三百餘首を存す、世之れを寒山詩集といふ。

秦の始皇の營む所なり、杜牧之の阿房宮賦に曰く、「六王畢つて四海一なり、蜀山元として阿房出づ」と。又曰く、「六國を滅すものは六國なり、秦に非ざるなり、秦を族するものは秦なり、天下にあらざるなり」と。其の鑑とすべき所、正に青天萬里月中するが如

くである、千載の下人をして節を打つて嘆せしむるなり。

慧日山東福寺、臨濟東福寺派の本山、京都五山の一、聖一國師の開山、藤原道家の創立による。

大慧禪師が爲人度生の際、於ける機縁の語要中より、特に機鋒峭峻なるもの、みを蒐集したるもの、參學比丘道謙の編したるものなり。その李法

の序に曰く、「大慧の機縁を武事に譬ふれば、韓白の儒なり、城を靡き邑を擯るに、嬰る者は破れ、摧くものは靡く、魔類百萬風を望み、戈を倒にして人徒に其の堂々たる陣鼓に服す」とあり、以て武庫の名の所由を推知すべし。

五祖法演禪師なり。

演曰く、「我れも亦箇の老婆有り、還つて信するや否や。」士默然たり、演乃ち頰して曰く、「我れに箇の老婆有り、

出世して人の見る無し、晝夜共に一處、自然に方便有り」云々。「余も亦頌を作り之れを記す。孫を愛し子を愛し妻に對して歌ふ、魔宮を滅却して猶ほ魔に入る、風流年少の境に貪着して、自然に一點の瀟和無し。

僧に有りては眼白く妻に有つては青し、客に對して唯だ言ふ我れ薄情と、花前に酌み盡す一樽の酒、半醉夜深けて猶ほ半醒。(一本、二つの有を在に作る。)

醉郷藁屋我が家山、燭影三更玉顔に對す、夜雨愁無し歌吹海、姮娥は須らく是れ人間に墮すべし。

觀法看經眞の作家、黃衣棒喝木床斜なり、藁直元是れ我が家の業、女色多情男色を加ふ。

冷齋夜話を讀む、褒禪山石崖僧の一件の事あり、感じて而して之れに題す

佛印重く荷ふ一百夫、佳名道價江湖に滿つ、石崖一箇野僧の意、佛法南方一點も無し。玉帶笑ひ欺く土泥の如し、路頭喧し吠犬と雞と、天下の老禪慚愧を奈せん、獄中天澤世皆乖く。百丈食を絶つて人の學ぶ無し、藥山兩粥黃菜の麥、但だ門外に居す弊衣の徒、金襴の道光法席を開く。(黃菜を一に黃桑に作る。)

德禪塔主自贊

平生爛醉金樽を倒す、老後の住持人事繁し、恃む莫れ榮華は竟に苦と成る、江山水宿又風餐。(一本、人事を塵事に作り、風餐を風喰に作る。)

惡知識の爲に警策す

因つて憶ふ 玄都千樹の桃、劉郎醉語許多の豪、利名の知識極めて功に驕る、堯帝の土塔三尺高し。

美人の嬉水を吸ふ

蜜に啓し自ら慚づ 私語の盟、風流吟罷んで三生を約す、生身墮在す畜生道、瀉山戴角の情を超越す。(一本、蜜を密に作り、超越を絶勝に作る。)

杜牧嘉直是れ我が徒、狂雲が邪法甚だ助け難し、人の爲に輕賤せられて罪業を滅す、外道波旬幾か途を失す。

臨濟兒孫禪を誑らす、正傳眞箇瞎驢邊、雲雨三生六十却、秋風一夜百千年。盲女森侍者、情愛甚だ厚し、將に食を絶つて命を殞さんとす、愁苦の餘、偈を作り之れを言ふ。

百丈鋤頭信施消す、飯錢閻老曾て饒さす、盲女が艶歌樓子を笑ふ、黃泉の涙雨滴蕭々たり。

①武陵の桃源を云ふ、晋の大元中、武陵の人、魚を捕るに緣つて行けば、桃花兩岸を挟み、落葉繽紛たり、其の林を窮めんと欲すれば水源盡く、便ち一山あり、小口を入れば土地平曠良田美地あり、男女皆外人の如し、秦の亂を避けて妻子を率ゐて來ると、漁人歸つて太守に説く、人をして更に行かしむれば、迷ふて道を得ず、南陽の劉子驥高尙の士なり、これを聞いて行かんとしていまだ果さず、尋で病んで終ふ、後遂に之れを問ふものなしと。劉郎醉語云々は又晉書に「劉伶嘗つて酔ひ、俗人と相忤ふ、其の人袂を撰

看よ看よ涅槃堂裡の禪、昔年百丈の鑿頭邊、夜遊爛醉す畫屏の底、閻老
面前飯錢を奈せん。

森公輿に乗る

鸞輿の盲女屢春遊す、鬱々たる胸襟好し愁を慰するに、遮莫あれ衆生の
輕賤することを、愛し見る森也が美風流。(見を一に看に作る。)

淫水

夢に上苑美人の森に迷ふて、枕上の梅花花信の心、満口の清香清淺の水、
黄昏の月色新吟を奈せん。

美人の陰、水仙花の香有り

楚臺應に望むべし更に應に攀づべし、半夜玉床愁夢の間、花は綻ぶ一莖
梅樹の下、凌波の仙子腰間を遶る。(遶を一に遶に作る。)

我が手を喚んで森手と作す

我が手森の手に何似ぞ、自ら信す公は風流の主、發病玉莖の萌を治す、且つ喜ぶ我が會裡の衆。
鴉を聞いて省有り

豪機曠志識情の心、二十年前即今に在り、鴉は笑ふ出塵の 羅漢果、日影玉顔の吟を奈何せん。

九月朔 森侍者、紙衣を村僧に借りて寒を禦ぐ、瀟酒愛す可し、偈を作つて之れを言ふ

良宵の風月心頭を亂る、何奈せん想思身上の秋、秋夢朝雲獨り瀟酒たり、野僧が紙袖也た風流。

森美人の午睡を看る

一代風流の美人、艶歌清宴曲尤も新なり、口吟腸斷す花顔の鬢、天寶の海棠森樹の春。

文明二年仲冬十四日、藥師堂に遊んで盲女の艶歌を聴く、因つて偈を作つて之れを記す

優遊且つ喜ぶ藥師堂、毒氣便々是れ我が腸、愧慚管せず雪霜の鬢、吟じ盡す嚴寒秋點の長きを。(鬢を
一に髮に作る。)

余新園の小舎に寓する年有り、森侍者、余が風彩を聞いて既に嚮慕
の志有り、余も亦焉れを知る、然れども因循として今に至る。辛卯
の春墨江に邂逅して、問ふに素志を以てす、則ち諾して而して應ず。

因つて小詩を作つて往日何闊の懐に問ふることを述べ、且つ今日來不束の喜を記すと云ふ。

憶ふ昔新園去住の時、王孫の美譽聽いて相思ふ、多年舊約即ち忘じて後、猶ほ愛す玉塔新月の姿

彌勒下生を約す

盲森夜々吟身に伴ふ、被底の鴛鴦私語新なり、新に約す慈尊三會の曉、本居古佛萬般の春。
木凋み葉落ちて更に春を回す、緑を長じ花を生じて舊約新なり、森也が深恩若し忘却せば、無量億劫

ひ拳を奪ひて行く、伶徐に曰く、鶉肋以て尊拳を安んずるに足らず」と。其の人笑ひて止む」と。

① 唐明皇貴妃の故事。「夜半人無き私語の時、天に在りては願はくは比翼の鳥と作り、地に在りて願はくは連理の枝と爲らん」と。白樂天長恨歌に見ゆ。

② 瀧山、水牯牛の事をいふ。

③ 一須陀洹果、二斯陀含果、三阿那含果、四阿羅漢果の四果の中、上位の果なり。

畜生の身。

國譯狂雲集 下卷

天澤七世東海狂雲老衲純一休

國譯狂雲集下卷終

狂雲集上卷

贊虛堂和尚

育王住院世皆乖，放下法衣如破鞋。臨濟正傳無一點，一天風月滿吟懷。放下一本作拋下。

題大燈國師行狀末

挑起大燈輝一天，鸞輿競譽法堂前。風餐水宿無人記，第五橋邊二十年。

如何是臨濟下事，五祖演曰：五逆聞雷。

機先一喝鐵圍崩，五逆元來在衲僧。桃李春風清宴夕，半醒半醉酒如繩。繩一本作繩。

如何是雲門宗，演曰：紅旗閃爍。

華旗風暖動春臺，八十餘員師席開。一字關兮三句體，幾人眼裏着紅埃。

如何是瀉仰宗，演曰：斷碑橫古路。

慧寂釋迦靈祐牛，披毛作佛也風流。古碑路斷長溪客，萬世姓名黃葉秋。

如何是法眼宗，演曰：巡人犯夜。

一滴曹源一滴深，巡人鬧鬧夜沈沈。青山滿目是何法，家醜猶如學捧心。

臨濟四料簡

奪人不奪境

狂雲集上卷

百丈瀉山名未休，野狐身與水牯牛。前朝古寺無僧住，黃葉秋風共一樓。

奪境不奪人

臨濟兒孫誰的傳，宗風滅卻瞎驢邊。芒鞋竹杖風流友，曲椽木床名利禪。

人境俱奪

雉鷲龜焦身速速，并汾絕信話頭圓。夜來滅卻詩人興，桂折秋風白露前。

人境俱不奪

莫道再來錢半文，姪坊酒肆有功勳。祇緣人話相如渴腸斷，琴臺日暮雲（緣一作因）

陳蒲鞋

賣弄諸人瞞，諸方德山臨濟沒商量。拈槌豎拂非吾事，只要聲名屬北堂。

岩頭船居圖 二首

會昌以後毀僧形，一段風流何似生。舞棹未懷爲人手，杜鵑叫月夜三更。

蒲葉半凋江漢秋，生涯受用在扁舟。乾坤一箇閑家具，年代撈波情未休。

贊二祖

大唐今古沒禪師，斷臂虛傳人不知。只許南山道宣筆，恰如痛所下針錐。

贊栽松道者

周家當處出生來，爲法喪身徒苦哉。宿昔植何時德本，栽松老漢也黃梅。

松源和尚三轉語

大力量人，因甚擡腳不起

商量鬼窟黑山禪，神力金剛現目前。普天之下是王土，擡腳句中公案圓。

開口因甚不在舌頭上

三寸舌頭開禍門，河沙諸佛轉多言。夜來百勞五更月，不奈聲聲祟夢魂。（月一作日，日崇作崇）

明眼衲僧，因甚腳跟下紅絲線不斷

二三四七諸禪師，領衆匡徒心亂絲。因錢有癖是和嶠，娘生腳下血淋漓。

虛堂和尚三轉語

己眼未明底，因甚將虛空作布袴着

畫餅冷腸飢未盈，娘生己眼見如盲。寒堂一夜思衣意，羅綺千重暗現成。

劃地爲牢底，因甚透者箇不過

何事春遊興未窮，人心尤是客盃弓。天堂成就地獄滅，日永落花飛絮中。

入海算沙底，因甚針鋒頭上翹足

撒土算沙深立功，針鋒翹足現神通。山僧者裡無能漢，東海兒孫天澤風。（足一作腳）

大燈國師三轉語

朝結眉夕交肩，我何似生

透關更有一重關，隨例依條不可攀。奇菓荔子天上味，名從天寶落人間。（子一作支）

露柱盡日往來，我因甚不動。

草鞋腳瘦沒知音，露柱同行伴我吟。錢有靈神十萬貫，杜鵑啼血託春心。

若透得箇兩轉語，一生參學事畢。

二十餘年曾苦辛，乾坤誰是我般人。參來直徹幽玄底，歇去獨登要路津。

舉靈山徹翁和尚末後之垂示，以示徒。其垂示云：正法眼藏無付人，自荷擔至彌勒下生。噫。

古佛靈山名不虛，當來彌勒是同居。兒孫一箇狂雲子，邪法大興殃有餘。（虛一作空）

牢關一句費工夫，百鍊精金再入爐。話到當來來劫曉，只愁枕上夢魂無。

凡參禪學道之輩，須日用清淨，不可日用不淨。所謂日用清淨者，究明一則因緣，到無理會田地，晝夜工夫不怠，時時截斷根源，佛魔難窺處，分明坐斷，往往埋名藏迹，山林樹下，舉揚一則因緣，時無雜純一矣。謂之日用清淨人也。然而吾稱善知識，擊杖拂，集衆說法，魔魅人家男女，心好名利，招學者於室中，道悟玄旨，使參者相似模樣，閉言語，使教者片箇情也。這輩輩非人也。寔日用不淨者也。以佛法爲度世之謀，是世上榮街之徒也。凡有身無不着，有口無不食，若知此理，豈街於世哉。豈諛於官家哉。如是之徒，三生六十劫，入餓鬼入畜生，可無出期，或生人間，受癩病苦，不聞佛法名字，可懼可懼。（時時一本作時今）

右靈山徹翁和尚示榮街徒法語，題其後云。

工夫不是涅槃堂，名利輝前心念忙。信道人間食籍定，羊糜一椀橘皮湯。

元正

現成公案任天真，鳳曆開元世界春。今日山僧換卻眼，堂中古佛面門新。

桃花浪

隨波逐浪幾紅塵，又值桃花三月春。流恨三生六十劫，龍門歲歲曝金鱗。（一本金鱗作腮鱗）

端午

千古屈平情豈休，衆人此日醉悠悠。忠言逆耳誰能會，只有湘江解順流。

冬至示衆

獨閉門關不省方，這中誰是法中王。諸人若問冬來句，日自今朝一線長。

佛誕生

三世一身異號多，何人今日定諸訛。娑婆來往八千度，馬腹驢胎亦釋迦。

佛成道

天上人間稱獨尊，今朝成道受誰恩。分明衲子流星眼，便是瞿曇的的孫。

佛涅槃

滅度西天老釋迦，他生出世到誰家。二千三百年前淚，猶洒扶桑二月花。

達磨忌

毒藥數加賊後弓，大千逼塞佛心宗。西來無意我有意，熊耳山中落木風。

狂雲集 上卷

大燈國師百年忌 二首

難覓青銅無半文，耐思一句豈驚群。祖師遷化已百載，空拜婆年婆子裙。
兒孫多踏上頭關，一箇狂雲江海間。大會齋還在何處，白雲蒸飯五臺山。

僧問岩頭云：古帆未掛時如何？頭云：小魚吞大魚。僧云：掛後如何？頭云：後園驢喫草。
寒溫苦樂，愧慙時耳。朶元來兩片皮，一二三兮三二一。南泉信手斬貓兒。

雲門示衆云：古佛與露柱相交，是第幾機？自代云：南山起雲，北山下雨。
小姑緣底嫁彭郎，雲雨今宵夢一場。朝在天台暮南岳，不知何處見韶陽。

苦中樂

酒喫三盃未濕唇，曹山老漢慰孤貧。直橫身火宅中看，一剎那間萬劫辛。

樂中苦

此是瞿曇曾所經，麻衣草座六年情。一朝點檢將來看，寂莫靈山身後名。

百丈野狐

千山萬水野僧居，甲子今年五十餘。枕上終無老來意，夢中猶讀小時書。

聞聲悟道

擊竹一朝忘所知，聞鐘五夜絕多疑。古人立地皆成佛，淵明端的獨顰眉。

見色明心

憶得寒山見月題，眼睛落地衆生迷。洛陽三月貴遊客，閃爍紅旗殘照西。

聞聲悟道，見色明心。雲門拈云：觀世音菩薩將錢來買胡餅，放下手云：元來是饅頭。
卽現觀音，奴婢身，饅頭胡餅谷精神。舊時難忘見聞境，滿目山陽笛裏人。

大隨庵邊有一龜，僧問：一切衆生皮裹骨，這箇衆生爲甚骨裹皮。大隨以草鞋蓋於背上。

衆生顛倒幾時休，打着前頭又後頭。信手救貓趙州老，草鞋戴去也風流。（戴一作載。）

黃檗禮佛

麤行沙門鬼眼開，身長七尺甚奇哉。不知何處見黃檗，立法商君破法來。

臨濟燒机案禪板

此漢宗門第一禪，奪人奪境體中玄。安身立命在那處，劫火洞然燒大千。

翠岩夏末示衆云：一夏以來爲兄弟說話，看翠岩眉毛在麼？保福云：作賊人心虛，長

慶云、生也、雲門云、關

眉毛公案爛泥荆，保福雲門同道行。長慶藏身還露影，小樓南畔月三更。

翠岩示眉毛圖

寶中有主主中寶，關字失錢生也親。賊賊賊拿不得，當頭姦黨是何人。

梅子熟

熟處年年猶未忘，言中有味孰能嘗。人斑初見大梅老，踈雨淡煙青已黃。（年年一作年來。）

盲

瞎瞞不受靈山記，四七二三須愧慙。豈墮在光影邊事，銅睛鐵眼是同參。

雙

掛拂遭呵百鍊金，天生懷海耳根深。真聞真箇在何處，爲鼓無絃一曲琴。

啞

一句欲披吾鬱襟，舌頭挂鬪笑吟吟。靈雲不答長生問，誰識金言猶在心。（長生一作長慶）

船子釣臺圖 二首

金鱗難得急流前，坐斷釣臺三十年。絲線一通名利路，子陵可喚夾山禪。
千尺絲綸豈得收，一天風月一江舟。舟翻人去名猶在，洙水何因不逆流。

賊

惱亂春風何所成，遊絲百尺惹多情。不知問取桃花去，換却靈雲雙眼睛。

贊清素首座

荔子食罷記吾曾，三十年來一箇僧。杜牧平生丈夫志，老無氣力望昭陵。（子一作支）

贊兜率悅禪師

素老天生薄福徒，佛魔公案的傳無鬱襟。忽發烈史筆，永辱楊雄莽大夫。（二三四句一本作的傳門第一人無恩深難報佛魔語，可惜楊雄莽大夫）

圓悟大師投機

沈吟小範一章詩，發動乾坤投大機。擊竹見桃若相問，須彌脚下赤烏龜。（問一作比又作問，赤

鳥作石鳥）

覽松源和尚塔銘

冷父住持功不空，祇貧作富甚家風。看來省數錢猶在，不識脚跟絲線紅。（紅一作功）

贊魚籃觀音

丹臉青鬢慈愛深，自疑雲雨夢中心。千眼大悲看不見，漁妻江海一生吟。

經卷拭不淨 三首

經卷元除不淨殘，龍宮海藏弄言詮。看看百則碧巖集，狼藉乳峰風月前。
弓影客盃多斷腸，夜來新病入膏肓。愧慚我不及禽獸，狗屎梅檀古佛堂。
信手拈來除不淨，作家面目露堂堂。南山雲起北山雨，一夜落花流水香。

大慧禪師焚碧巖集

妙喜老人千歲名，宗門潤色太高生。子胥曾受吳王戮，可惜獨體無眼睛。

牛

異類行中是我曹，能依境也境依能。出生忘卻來時路，不識當年誰氏僧。（我曹一作我曾）

蛙

價釣鯨鯢笑一場，泥沙碾步太忙忙。可憐井底稱尊大，天下衲僧皆子陽。

尺八

一枝尺八恨難任，吹入胡笳塞上吟。十字街頭誰氏曲，少林門下少知音。

傀儡

一棚頭上現全身，或化王侯或庶民，忘卻目前真木概，癡人喚作本來人。

羅漢菊

茶褐黃花秋色深，東籬風露出塵心，天台五百神通力，未入淵明一片吟。

菊 羅漢楊妃同瓶

楊妃爛醉一籬秋，茶褐相交為好仇，失卻神通居下界，應身天寶辟陽侯。

雪團

乾坤埋卻沒門關，收取即今為雪山，狂客時來百雜碎，大千起滅剎那間。

嫌佛閣

德嶠韶陽門大開，喚為嫌佛一樓臺，這般知識說邪法，問話者從魔界來。（韶陽一作昭陽）

鰥齋

古佛堂中交露柱，斬成兩段定誦訛，青山綠水一閑客，可喚岩頭黑老婆。

竹幽齋

香嚴多福主中賓，密密參禪到要津，六六元來三十六，清風動處有佳人。

陋居

目前境界似吾癩，地老天荒百草枯，三月春風沒春意，寒雲深鎖一茅廬。

題如意庵校割末

將常住物置庵中，木杓箴籬掛壁東，我無如此閑家具，江海多年養笠風。

如意庵退院寄養叟和尚

住庵十日意忙忙，腳下紅絲線甚長，他日君來如問我，魚行酒肆又淫坊。（如一作若）

寄南江山居

天下禪師賺過人，黑山鬼窟弄精神，平生杜牧風流士，吟斷二喬銅雀春。

偶作

昨日俗人今日僧，生涯胡亂是吾能，黃衣之下多名利，我要兒孫滅大燈。

山路 讓羽

吞聲透過鬼門關，豺虎蹤多古路間，吟情終無風月興，黃泉境在目前山。（透過一作閑過，吟情一作吟杖）

山居 二首

姪坊十載興難窮，強住空山幽谷中，好境雲遮三萬里，長松逆耳屋頭風。

狂雲真是大燈孫，鬼窟黑山何稱尊，憶昔簫歌雲雨夕，風流年少倒金樽。（雲雨一作雲南）

山中示典座

歸宗一味日興餘，典座山中功不虛，休覓淨名香積飯，何時饒有美雙魚。

山中得南江書

孤峯頂上草庵居，三要印消功未虛，不意玄中有玄路，萬行衰淚一封書。

狂雲集 上卷

自山中歸市中

狂雲誰識屬狂風，朝在山中暮市中。我若當機行棒喝，德山臨濟面通紅。

昔有一婆子，供養一庵主，經二十年，常令一二八女送飯給侍。一日令女子抱定云：「正恁麼時如何？」庵主云：「枯木倚寒巖，三冬無暖氣。」女子歸舉似婆子云：「我二十年只供得養箇俗漢，追出燒却庵。」

老婆心爲賊，適梯清淨沙門與女妻。今夜美人若約我，枯楊春老更生梯。

畫虎

觀面當機誰一撻，寒毛卓豎老岩頭。恁哉備在扶桑國，凜凜威風四百州。

宗新藏主製墨以爲業，偶以送之（一本無偶以字）。

萬杵霜花華頂天，商量來不直多錢。何須知藏書經卷，小艷題詩街少年。

示病僧紹珠首座

業識忙忙從劫空，平生伎倆到今窮。四百四病一時發，苦屈苦辛安樂中。

宗春居士下火 行年三十七

彌勒釋迦也馬牛，春風惱亂卒何休。六六元來三十七，一聲念讚起鐘樓。

病中還人送曲棣

法座上禪名利基，諸方豎拂與拈鎚。圓悟金山遭大病，苦吟小艷一章詩。

文安丁卯秋大德精舍有一僧，無故而自殺矣。好事之徒，遂謂之官繫其餘殃而居。

囚禁者七五輩，足爲吾門之大亂。時人喧傳焉，予聞之，即日晦迹山中。其意蓋出於不忍耳。適學者自京城來，說本寺件件事，愈弗堪慨嘆。作偈言懷時值重陽，故成九篇云（說本寺件件事，愈弗堪慨嘆。一本作說本寺件件事之故，愈弗勝慨嘆）。

地老天荒龍寶秋，夜來風雨惡難收。對他若作是非話，髣髴雲門闕字酬。慚我聲名猶未韜，參禪學道長塵勞。靈山正法掃地滅，不意魔王十丈高。停囚一月老虛堂，身上迤邐休。斷腸苦樂寒溫箇時節，黃花一朵識重陽。清淨本然現大千，現前境界是黃泉。憤戰作家赤心露，眉間掛劍血澆天。正傳傍出妄相爭，曠劫無明人我情。人我擔來擔子重，空看蛺蝶一身輕。上古道光今日明，議論臨濟正傳名。屋前屋後樵歌路，憶昔山陽笛一聲。棒喝德山臨濟禪，商量三要與三玄。漢王鑄印却消印，胡亂更參三千年（消印一本作消市）。

近代久參學得僧，語言三昧喚爲能。無能有味狂雲屋，折腳鐺中飯一升。

風外松杉亂入雲，諸方動衆又驚群。人境機關吾不會，濁醪一盞醉醺醺。

贊靈昭女

箴籬賣劫甚風流，一句明明百草頭。相對無心弄禪話，朝雲暮雨不堪愁（堪一本作勝）。

風鈴 二首

靜時無響動時鳴，鈴有聲耶風有聲。驚起老僧白晝睡，何須日午打三更。見聞境界太無端，好是清聲隱隱寒。普化老漢活手段，和風搭在玉欄干。

牛庵 齋名

某甲滄山僧一頭，長溪路上即忘不，閑中無復祖師見，花屬春風月屬秋。

半雲 齋名

膚寸無根點碧空，安身立命在其中，夢魂昨夜巫山雨，吟斷朝來一片蹤。

贊六祖

隨身擔子鋤斧，不知何處山翁，南方佛法會否，盧公老老盧公。

紹鷓藏主規地卜居，家徒四壁立扁曰土庵，作偈以為證云

夏巢冬穴一身康，帶水拖泥萬念忙，稼穡艱難若領略，梅檀佛寺名利場。（梅檀佛寺名利場，一本作梅檀佛寺利名場。）

大機居士卜小築，額曰瞎驢，因贊以偈云

大人消息有誰通，不墮靈山記前中，臨濟宗風掃地滅，紅塵紫陌鬧忽忽。

簑笠 庵號

樵客漁人受用全，何須曲榭木床禪，芒鞋竹杖三千界，水宿風殮二十年。

謹奉錄呈一休老和尚座下

狂風徧界不曾藏，吹起狂雲狂更狂。

誰識雲收風定處，海東初日上扶桑。

幻住孫真建九拜

和韻

慚愧聲名不覆藏，佯歌爛醉我風狂，吟懷夜夜中峯月，幻住僧無三宿桑。

華叟老師掩光而後，既泊二十餘年也，壬申秋救謚大機弘宗禪師，仍製禪詩呈寄

大用養叟和尚，且陳賀忱云。（年一作稔）

會謝塵寰五十年，芳聲美譽是何禪，子胥日暮倒行去，覩面辱屍三百鞭。（日暮一本作晚日）

懶瓚辭詔也何似，煨芋烟鎖竹爐裏，大用現前真衲僧，先師頭面潑惡水。

贊端師子

弄師子處正明心，不托回頭口若暗，讀誦蓮經風雪燭，漁歌一曲五更吟。（處一作床）

大德寺火後題大燈國師塔

創草百二十八年，看來今日體中玄，正邪境法滅卻後，猶是大燈輝大千。

渡江達磨

腳下苦哉平地波，誰人梁魏定誓訛，西來莫道大難意，河廣傳聞一葦過。

贊臨濟和尚

從來道業是毗尼，黃檗棒頭忘所知，正傳的的克勤下，吟破風流小範詩。

贊普化

德山臨濟奈同行，街市風顛群衆驚，坐脫立亡多敗闕，和鳴隱隱寶鈴聲。

黃檗三頓棒

狂雲集 上卷

棒頭打着羯磨僧，痛處針錐絕技能。桃李春閨簾外月，吟魂一夜十年燈。（僧一作曾）
腳下紅絲線

持戒成驢破戒人，河沙異號弄精神。初生孩子婚姻線，開落紅花幾度春。（成一作爲）
贊華叟和尚

靈山孫言外的傳，密漬荔支四十年。兒孫有箇瞎禿漢，願得老婆新婦禪。
自贊

華叟子孫不知禪，狂雲面前誰說禪。三十年來肩重，一人荷擔松源禪。
風狂狂客起狂風，來往淫坊酒肆中。具眼衲僧誰一撥，畫南畫北畫西東。
大燈佛法沒光輝，龍寶山中今有誰。東海兒孫千載後，吟魂猶苦許渾詩。
百丈餓死 三首

爲人苦行也天然，大用分明即現前。一日不作必不食，大人手段作家禪。
古人受用幾嘗艱，不是尋常談笑間。飽食痛飲飯袋子，又衣翫水又遊山。（一本艱作難，笑作咲）
工夫長養大慈心，臨濟消來萬兩金。昔日艱難聞吐哺，簞衣箬笠鏗頭吟。

示會裡徒 三首

樂中有苦一休門，箇箇蛙爭井底尊。晝夜在心元字腳，是非人我一生喧。
公案參來明歷歷，胸襟勘破暗昏昏。怨憎到死難忘卻，道伴忠言逆耳根。
徒學得祖師言句，識情刀山牙劍樹。看看頻頻舉，他非銜血噴人其口污。

示入定僧

塵緣塵境萬端稠，到此誰人截衆流。誓心決定魔宮動，長信西風琪樹秋。
讀碧巖集序

夾山言教價千金，一炬看來救古今。休向寒灰成議論，宗乘滅卻老婆心。

黃龍三關

成佛成驢手腳全，河沙異號任生緣。黃龍關外黑雲鎖，積翠春風楊柳前。
虎丘雪下三等僧 二首

少林積雪置心頭，公案圓成上等仇。僧舍吟詩剃頭俗，飢腸說食也風流。（舍一作社）
禪者詩人皆癡鈍，雪下三等多議論。妙喜若是大慈心，說食僧與香積飯。（癡一作癩，又懶）

看大德寺修造有感

雲門卯塔一茅廬，大用黃金殿上居。榜出正傳現前境，楊岐屋壁古來疎。
新造大應國師尊像

活眼大開真面門，千秋後尚弄精魂。虛堂的子老南浦，東海狂雲六世孫。

題姪坊

美人雲雨愛河深，樓子老禪樓上吟。我有抱持嗟吻興，竟無火聚捨身心。
示延壽堂僧

無常殺鬼現前時，末後牢關說向誰。百事難休五欲鬧，六窓欲鎖八風吹。

病中作

德山棒兮臨濟喝，嘆我被他機境奪。若人問馬祖，不安慚愧一生相如渴。(被一作破)

示榮街惡知識 二首

參禪婆子楊花帳，入室美人蘭蕙茵。近代箇邪師過謬，馬牛漢非是人倫。(非一作不)
捧心自稱法王身，世上弄嘲徒怒嗔。一箇糊孫沒巴尾，出頭大用現前人。(捧一作棒)

拜關山和尚塔

荒草不鋤乃祖玄，涅槃正法妙心禪。杜鵑叫落關山月，誰在花園躑躅前。(一本三四句作誰人吟落關山月，五夜漏聲曉箭前)

雨滴 齋名

蕭蕭門外是何聲，不會當機問鏡清。顛倒衆生迷逐物，窓前半夜一燈青。(窓前一作吟瓊)

松窓 齋名

茅廬竹閣與難窮，臨濟栽來功不空。枕上愧慚有閑夢，夜來驚起屋頭風。(愧慚一作自慚)

面壁達磨

誰人任運問安心，昔日神光侍少林。面壁功成無面目，不知積雪滿庭深。

苦行釋迦

六年飢寒徹骨髓，苦行是佛祖玄旨。信道無天然釋迦，天下衲僧飯袋子。

言外和尚

無端滅卻大燈家，鐵眼銅睛劔樹牙。一句分明言外語，親聞華叟若曇華。

徹翁和尚

大燈子大應孫，正傳臨濟宗門。儼然靈山一會，何妨三界獨尊。

趙州三轉語

泥佛不渡水，木佛不渡火。金佛不渡爐。

詩成小範述愁情，一枕多年夜雨聲。長笛暮樓誰氏曲，曲終江上數峰青。(青一作清)

龐居士製竹漉籬圖

河裏拾來十萬錢，庫中終沒半文錢。真箇籬箕門下客，衆籬賣不直多錢。(沒一作無)

大惠宏智揖讓圖

眉毛相結眼睛同，兩箇老禪機境融。力士鐵槌子房策，憤心在博浪沙中。

山庵雜錄曰：楚石住嘉興天寧，值有司重作官宇闕，木石欲取村落無僧廢庵，應所

需，因集諸寺住持議之。時楚石力陳不可者沮之，有司不聽。遂揚退鼓歸海鹽天寧。

二老皆勇於行義，視棄師席之尊，不啻如棄弊屣。今雖荐禍患罹已，而猶濡忍戀戀，

亦獨何哉！予讀此有感，因作偈云：又有了庵一事省之，一本二老作二左，羅已作嬰

已了庵作子庵。

奪人奪境事猶稠，幽谷閑林不自由。莫道江山無定主，普天之下帝王州。

龍門亭題偈賀天龍寺再興

盡乾坤乃祖門風，萬嶽嵯峨烟雨中。三級浪高黑雲鎖，潛鱗直得化天龍。

感龍翔寺廢

常住物誰用己身，山門境致剪松筠。殿堂只與花零落，廢址秋風二月春。

虛堂和尚十病 二首

病在自信不及處，病在得失是非處。

病在我見偏執處，病在眼量窠臼處。

病在機境不脫處，病在得少為足處。

病在一師一友處，病在旁宗別派處。

病在位貌拘束處，病在自大了一生小得處。

是非元勝負修羅，傍出正傳人我多。近代邪師誇管見，識情毒氣任偏頗。議論未休正與邪，無慚愧漢是天魔。狂雲臥病相如渴，一枕秋風奈我何。

拈華微笑

鷲峰會上現前辰，鷄足室中來劫春。中毒人應知毒用，西天此土野狐身。

贊慈恩窺基法師

窺基三昧獨天真，酒肉諸經又美人。座主眼睛猶如此，宗門唯有箇宗純。如一作若。

同門老宿誡余姪犯肉食會裏僧嘆之因作此偈示衆僧云

為人說法是虛名，俗漢僧形何似生。老宿忠言若逆耳，昨非今是我凡情。

病中作

佛病祖病送鬼眼，臨濟焚几案禪板。不會金山大病辛，時人空吟艷詩簡。送一作逆。

隱溪齋名

呂公子陵真面目，受用風飡又水宿。江湖今有賈漁舟，我無一竿湘楚竹。

示衆

參玄衲子道難成，但願歸依常不輕。一片吟懷向誰解，楚雲湘水十年情。

破邪禪

瞿曇四十九年說，看看毘耶與摩羯。邪師臆說拈話頭，閻王前豈免拔舌。一本羯作謁，舌作口。

新建立佛寺

一生破屋廢庵居，這裏榮華也不虛。清淨佛寺利欲地，楊岐屋壁古來疎。

將入山中一偈書屋壁以示衆去

愧慚禍起自蕭牆，我見折人如劔鏘。從此空山幽谷路，誰人來踏板橋霜。

顯密庵和尚病起上堂後

江山富貴是樵漁，風雨吟身一草廬。七顛八倒衆生苦，不耐小魚吞大魚。

賀大用庵養叟和尚賜宗慧大照禪師號

紫衣師號奈家貧，綾紙青銅三百緡。大用現前賈長老，看來真箇普州人。

寄大德寺僧

人多入得大德門，這裏誰捐師席尊。淡飯蠶茶我無客，醉歌獨倒濁醪樽。（大德一作大燈）

贊鳥窠和尚（一本鳥窠作鳥巢）

巢寒樹上老禪翁，寂莫清高名未空。諸惡莫作善奉行，大機須在醉吟中。

題養叟大用庵 二首

叢林零落殿堂疎，臨濟宗門破滅初。大用梅檀佛寺閣，崢嶸林下道人居。（崢嶸一作淨溪）

山林富貴五山衰，唯有邪師無正師。欲把一竿作漁客，江湖近代逆風吹。

百丈絕會絕一作施

大智禪師難行道，末法爲人真落草。飽食痛飲熱鐵丸，初懼泉下閻羅王。（王一作老）

示衆

割截難禁忍辱仙，捨身諸佛舊因緣。千歲聲名斷碑雨，獨體識盡北邙前。

病中 二首

錯來領衆十年餘，實悟不知多是虛。乃欲破除邪法輩，夜來背發范增疽。

藥山兩粥懶殘芋，昔年祖師修行苦。棒喝機關作家禪，非是牢關末後句。（非一作不）

示衆

忍辱仙人常不輕，菩提果滿已圓成。撥無因果任孤陋，一箇盲人引衆盲。

贊仰山 二首

小釋迦唐朝出生，夢中兜率太分明。耽源體也瀉山用，體用中唯開眼睛。

枕子夜來推出時，一宗敗闕少人知。法身說法座主說，黃葉一枝誑小兒。

松源和尚上堂云：舉僧問巴陵祖意教意，是同是別。巴陵云：鷄寒上樹，鴨寒下水。白雲師祖云：巴陵只道得一半，白雲則不然。掬水月在手，弄花香滿衣。師拈云：白雲盡

力道只道得八成，有問靈隱只向他道：人我無明一串穿。

祖意教意別與同，商量今古未曾窮。松源老婆心切，人我無明屬己躬。

涅槃堂

眼光落地涅槃堂，自悔自慚蟒鱗湯。七手八腳萬劫苦，無常殺鬼火車忙。（殺一作利）

涅槃堂

眼光落地涅槃堂，自悔自慚蟒鱗湯。七手八腳萬劫苦，無常殺鬼火車忙。（殺一作利）

竹篋背觸

背觸首山閑話頭，語訛着着沒來由。梨花院落黃昏月，說向愁人不解愁。

山居僧擁葉

孤峰頂上謝塵寰，三十年來不出山。因憶南陽擁葉意，半身暖氣半身寒。

山居僧

無人時喜客來噴，落葉飛花獨覺身。正見禪師若行令，三冬枯木百花春。

拈華微笑

世尊拈出一枝花，一代禪宗意氣奢。金色頭陀獨傳法，近年知識如河沙。（如一作若）

贈新法師

威音那畔法無師，自悟自然成道奇。偶有出家新戒漢，劫空久遠在今時。（遠一作遠）

絕交會裡衆偈，且以自警云。

匡徒領衆立魔宮，汗馬從前蓋代功。師弟凡情共姦黨，可憐韓信嘆良弓。

行脚

咸陽金玉幾樓臺，方寸封疆歸去來。一箇出頭天外看，須彌百億草鞋埃。

贊達磨大師半身

東土西天徒弄神，半身影像現全身。少林冷坐成何事，香至王宮蕙帳茵。影像一作形像。

讓羽山新剎一寺，山名虛堂寺，扁大燈，因述一偈。

茅屋三間起七堂，狂雲風外我封疆。夜深室內無人伴，一盞殘燈秋點長。（茅一作茆）

擴出中川賀頌

不救病身勞病身，蕭牆有禍會中賓。十年劍樹刀山底，萬劫難消阿鼻辛。

擴出中川賀頌，呈勝瓊

本非蛇影客盃弓，元字在心從劫空。昨日凡兮今日聖，無根雲起變通風。

病

馬祖不安閑話頭，毘耶杜語不勝愁。夜夜苦吟三十歲，月滿茂陵桂樹秋。

紅葉題偈，以呈多欲之僧

滿庭落葉無僧掃，南陽擁來猶落草。自悔成欲界衆生，君子愛財是何道。

長祿庚辰八月晦日，大風洪水，衆人皆憂，夜有遊宴歌吹之客，不忍聞之，作偈以自

慰云。

大風洪水萬民憂，歌舞管絃誰夜遊。法有興衰劫增減，任他明月下西樓。

重題靈山和尚示榮街徒法語後

李下從來不整冠，奔馳世上豈諛官。江山風月我茶飯，自笑一生吟味寒。

白居易問鳥窠和尚，如何是佛法大意，窠曰：諸惡莫作，衆善奉行，白曰：三歲孩兒也，解恁麼道，窠曰：三歲孩兒雖道得，八十老人行不得，靈山和尚每曰：若無鳥窠一語，我徒盡泥乎，本來無一物，及不思善不思惡，善惡不二，邪正一如等語，以撥無因果，而世多日用不淨之邪師也，故余作此偈，以示衆云。

學者撥無因果，沈老禪一句價千金，諸惡莫作善奉行，須在先生醉裏吟。

余誠會裏徒曰：喫酒必須用濁醪，看則其糟而已，遂名之曰乾一酒，仍作偈，以自笑云。

醉裏衆人奈酒腸，醒時伎盡啜糟糠。湘南流水懷沙怨，引得狂雲笑一場。

余四十年前，聞秉拂僧在法堂上，一本法堂作法座，而說禪客之氏族焉，于商于工，于行僕者，流各訐其所業，甚者乃臻出手以爲模樣，吁是何爲也，卽乃掩耳而出矣，因述二偈，意在革弊，凡四姓之入我門，皆稱釋氏，以其乞食而資命，乞法而資性也，（一本作凡四姓之入吾門，皆稱釋氏，以其乞食而資姓，乞法而資姓也，亦何貴貴望族之有哉，今世山林叢林之論人，必議氏族之尊卑焉，是可忍孰不可忍乎，遂寫前

偈以揭示四方誰敢擊節其偈曰

說法說禪舉姓名辱人一句聽吞聲問答若不識起倒修羅勝負長無明
犀牛扇子與誰人行者盧公來作賓姓名議論法堂上恰似百官朝紫宸

佛眼遠禪師三自省曰報緣虛幻不可強爲浮世幾何隨家豐儉苦樂逆順道在其
中動靜寒溫自媿自悔

自悔自慚溫與寒看看三界本無安愚迷正是衆生樂嘗蜜猶忘井底難一本看看作着着
作偈博飯喫

來往東山昨若今飢時一飯價千金荔支素老佛魔話慚愧詩情風月吟昨一作昔
贊松源和尚

娘生眼照太虛空天澤兒孫在海東滅卻宗風三轉語詞華心緒一天紅華一作革
贊蓮庵和尚

惡魔境鬼眼睛開五逆元來應聞雷臨濟當時焚几案道場觀面却衣來一本鬼作界聞作聽
贊大應國師

看看佛日照乾坤天上人間唯獨尊禪老如無渡東海扶桑國裏昏昏昏
贊大燈國師

畫出面門無覆藏須彌百億露堂堂德山臨濟若入室螢火應須遇大陽
虛堂和尚三轉語

龍門萬仞碧波高天澤面前誰畫牢生鐵鑄成三轉語作家爐鑪煨吹毛

漁父

學道參禪失本心漁歌一曲價千金湘江暮雨楚雲月無限風流夜夜吟

題靈山塔贈正傳庵僧
看來真箇正傳庵不說宗乘唯世談凜凜威風逼人冷當機觀面有誰參

題白樂天像

勳業名高白樂天自然流落絕塵緣叢林失志山林輩莫訝雙林寺裏禪

思舊齋 二首

山陽長笛子雲吟蜜漬荔支素老心熟處三生六十劫一聲望帝月西沈
昔年黃犬與蒼鷹苦樂悲觀地獄能欺得楊岐吾屋壁乾坤一鉢一衣僧

踈壁齋

楊岐天下老禪翁從此大興臨濟宗紅塵紫陌我乍住山舍半吹黃葉風與一作與

滅燈齋

真前一盞太分明乃祖靈光照太清德嶠悟道我不會江湖夜雨十年情

示斬貓僧

是吾會裏小南泉信手斬貓公案圓錯來自悔行斯令驚起牡丹花下眠

僧無尊卑

狂雲集 上卷

盧能馬箕姓名拙，教外別傳越佛說。杜撰禪流井底尊，可憐皮下元無血。

謹白久參人 二首

圓頂方袍姪，威風鎮逼人。寒古則參得家業，可愧妄長我慢。

莫言公案即圓成，八角磨盤心上橫。邂逅難知自屎臭，他人敗闕鏡中明。

前年辱賜大燈國師頂相，予今更衣入淨土宗。故茲奉還，栖雲老和尚。

離却禪門最上乘，更衣淨土一宗僧。妄成如意靈山衆，嘆息多年晦大燈。

狂雲大德下波旬，會裏修羅勝負曠。古則話頭何用處，幾多辛苦數他珍。

謹白久參人 寬正二年六月十八日崇宗藏主絕交

一善不行作諸惡，憎他妬他元字脚。口堅勁見地微弱，瞎禿禪宗門零落。人笑是無繩自縛，見他非不知己錯。日用工夫禍作略，暫時難得住虛廓。直指爲人又機作，如是禪話填溝壑。好勢耽名之下度，到此誰人與刻削。參得古則心彌濁，醍醐上味爲毒藥。

看靈山行狀

宗門極則又誓訛，乃祖靈山前釋迦。採筆誰人點鬼簿，工夫日用俗塵多。

香嚴擊竹

潭水北兮湘水南，竹枝曲裏口喃喃。樽前爛醉豪家客，不知愁人夜雨談。（知一作識）

示會裡徒法語

凡參禪學道，須勦絕惡知惡覺，而至正知正見也。惡知惡覺者，古則話頭、經論要文、學得參得。

坐禪觀法，勞而無功者也。如是輩，當代四百四病一時發，爲人所辱，是情識之血氣也。對閻老面前，有甚伎倆乎？獅子尊者，斷頭白乳，顯露分明也。正知正見者，日用坐斷涅槃堂底工夫，全身墮在火坑，子細看之，苦中有樂，若能見得，不味撥無因果之境，若見不得，永不成佛漢，可懼可懼。

如汲井輪略無停息，今既得出家，僧相圓備，在三衣一鉢下，想是過去幾生修來得。如此乎？若是再入驢胎馬腹去，不知又經幾生歸來改修此錯，努力努力，切須今生了達，無如是殃過念之念之。

右靈山和尚法語題其後云

互操高低汲井輪，威音彌勒一回春。三世諸佛歷代祖，泉聲滴淚苦吟身。

我病不及良藥効驗，不及經呪靈驗，逐日窮困，有我情識，爾等諸人，縱雖利那縱雖。

一念成真正工夫，窮決未了處，到着實處，諸魔障頓除，老懷如意耳，衆無對。

右靈山和尚因病示衆法語題其後云

不須經呪亂心頭，佛界伎窮魔界收。莫向愁人說愁意，相如雲雨渴望秋。

拜大德寺住持勅請之頌，呈廣德堂上柔仲和尚

大德大燈龍寶山靈光，天上又人間。燒香酌恩墨，華叟金色頭陀曾破顏。

文明甲午春，拜大德禪寺住持勅請門客交賀，吁五十年簞笠淡如，勅黃捧照，無愧于懷乎，因作詩泄之。

大燈門庭滅殘燈，難解吟懷一夜冰。五十年來筭笠客，愧慚今日紫衣僧。（庭一作第）

再住妙勝寺之次，披虛堂和尚法衣，因合山清衆需一偈，書以塞其請。

先祖還衣，順老留衣，斬作兩段，是松源衣。

龍寶山大德禪寺入寺法語

山門

一跳直入龍寶三門，門門有路，逼塞乾坤。

佛殿

古佛堂中露柱雲雨，作以手分勢云，分破後如何，雲門霧露。

土地堂

上天是梵天帝釋，下天是多聞持國，護法神向何處見，新長老，新長老，響六六三十六。

祖師堂

祖師何人我何人，咄，誰奪境奪人。

拈衣

小艷平生心亂絲，慈恩先祖手中絲，順老明眼衲僧，擲袈裟云，是甚脚下紅絲。

室

明頭來明頭打，暗頭來暗頭打，四方八面來旋風打，虛空來連架打，新長老，響乾坤一箇嘉苴僧，喝一喝云，無人來問，相如渴，敲破梅花一夜冰，打。

退院

平生嘉苴小艷吟，酒嬌色嬌詩亦嬌，擲拄杖云，七尺拄杖還常住，吹尺八云，一枝尺八少知音。

帖

頂戴即是放下，即是薄天之下，是王土，頂戴云，是是。

狂雲集 上卷終

狂雲集 下卷

大燈國師三轉語曰：朝結眉夕交肩，我何以生云云，何似生雖古尊宿罕有受用之者，唯慈明下清素首座能用之，雖然晚年遇兜率悅公，食荔支之次，遂納敗一場，惜哉，有始而無終，惜哉！一作「情乎」感懷之餘，作五偈記之，偈曰：

這箇誦訛受用徒，古今衲子一人無，素老慈明的傳子，荔支核子嚼何魚，（素老一作級老）慈明狹路得楊岐，觀面之機痛處誰，天澤愁吟風月客，繡簾吹動軟風扉，工夫日用閉門車，五十年來烏有歌，素老荔支真敗闕，德山臨濟竟如何，（烏有一作烏有）暮天細雨片雲朝，名屬成都萬里橋，百年東海獨休歇，飽簡吟魂永日消，工夫弄棹齋公舟，尊宿織鞋蒲葉秋，野老難藏篋笠譽，誰人江海一風流，（弄一作勞）

大燈忌宿忌以前對美人

宿忌之開山諷經咒逆耳，衆僧聲雲雨風流事終後，夢聞私語笑慈明。

止大用庵破却 二首 寬正五年

破邪歸正識情勝負人，我無明可美，出塵羅漢，青天月白風清。

認定盤擔板漢禪，衲僧作略豈膠膠，殺活縱橫惡手段，鑄消正印漢王前。

題大德寺動亂

禪者爭禪詩客詩，蝸牛角上現安危，殺人刀矣活人劍，長信佳人獨自知，伏虎將軍是我徒，英雄不失惡魔途，吹毛三尺掌握內，佛法南方一點無。

訪養叟的子熙長老癩病（訪一作問）

毒蛇窟宅洛陽東，癩病深懼享徹翁，紹熙養叟正傳子，學得天衣佛日風，（風一作禪）病輕脈重咸淳禪，病重脈輕會昌禪，就中腐爛養叟輩，病脈並損今日禪。

賀熙長老鷺尾新造寺，以訪癩病

癩病腳跟毒氣生，殿堂新造勢崢嶸，鋤頭耕破鷺峰頂，荒草山前無一莖，（一本，腳跟作腳痕，耕破作畔破）

梅檀佛寺利名禪，公案纏腰十萬錢，滿目青山法眼境，鷺峰樵客踏通玄，鷺峯建立大伽藍，普請崩山又碎岩，五臟敗壞成膿血，黃衣癩肉臭汗衫，妄參佛祖舊因緣，天道豈饒逢着膾，食淡志潔吾自業，志姦食美汝家傳，獼猴無尾出人前，乃祖弄嘲天下偏，拈棒下喝送一送，始看勾欄歌舞禪。

大燈門下單于境，姦賊此時開法筵，厚面無慚唯畜類，古今無若此邪師，（邪一作禪）

風流入室苾芻尼，因憶慈明狹路時，腸斷纖纖呈露手，暗吟小範一章詩，願熙禪話太新鮮，呈露開拳又出拳，龍峯山中惡知識，言詮古則盡虛傳，得果投機多教人，青銅定價兩三緡，休歌亡國伊州曲，榮街乾坤天寶春，引律集徒幾癩兒，面門眼上總無眉，法中姦黨自了漢，傳授無師話有私。

題願來的的付兒孫

願卦題名貪食來，會中貽笑寵如梅。攬金手段機輪轉，君子果然多愛財。

謝人贈鹽醬

胡亂天然三十年，狂雲作略這般禪。百味飲食一椽裏，淡飯粗茶屬正傳。粗一作麤

病中 二首

破戒沙門八十年，自慚因果撥無禪。病被過去因果果，今行何謝劫空緣。

美膳誰具一雙魚，小斃工夫日用虛。姪色吟身頭上雪，目前荒草未曾鋤。目一作山

代斷頭罪人 二首

六條河畔斷頭場，逼面殺人三尺鋸。伎窮情盡魔途失，空斷春閨夢裏腸。

或人瞠眼或低頭，各是波旬之道流。多年風月卽今劍，大地山河滿目愁。

羅漢遊姪坊圖 二首

羅漢出塵無識情，姪坊遊戲也多情。那邊非矣那邊是，褫子工夫魔佛情。

出塵羅漢遠佛地，一入姪坊發大智。深笑文殊唱楞嚴，失卻少年風流事。

涅槃像 二首

作佛披毛無主賓，春愁二月涅槃辰。有情異類五十二，混雜紫磨金色身。

頭上北州腳下南，前三三與後三三。逼塞乾坤釋迦像，看來惠日一伽藍。與一作也

嘲熊野權現

垂跡三山榎本頭，百由旬瀑直飛流。室郡休道馬不進，徐福精神物外遊。

閑工夫，辱榮街徒

金襴長老一生望，集衆參禪又上堂。樓子慈明何作略，風流可愛美人粧。

正工夫，示久參徒

機輪轉處實能幽，臨濟正傳名利謀。一枕春風雞足曉，三生夜雨馬嵬秋。

洛下昔有紅欄古洞兩處，曰地獄，曰加世，又安聚坊之口，有西洞院，聚一作衆，諺所

謂小路也，歌酒之客，過此處者，皆爲風流之清事也，今街坊之間，十家四五娼樓也，

淫風之盛幾乎亡國，吁關雎之詩，可想乎哉，不足嗟嘆，故述二偈一詩，以詠歌之云。

（一本，作述二偈一詩，歌之云。）

偈曰

同居馬牛犬兼雞，白晝婚姻十字街。人道悉是畜生道，月落長安半夜西。

佛交露柱一同途，邪法此時難得扶。榮街徒似作家漢，佛法胸襟一點無。

詩曰

姪風家國喪亡愁，君看雌鳩在彼洲。隨例宮娥主恩夕，玉盃夜夜幾春秋。

俗人姪坊門前吟詩歸

樓子無心彼有心，姪詩詩客色何姪。宿雨西晴小歌暮，多情可愛倚門吟。

相國寺沙喝騷動

狂雲集 下卷

元來長久萬年山，葉戰松杉風外間。濟北蔭凜宗風滅，白拈手段活機關。（間一作聞）

童謠逆耳野村謳，唱起家家亡國愁。十年春雨扶桑淚，稼穡艱難廢址秋。
皇城山野野皇城，變雅變風人不平。酪皮秋瘦山骨露，狂雲一片十年情。（酪一作體）

看杜詩 二首

古今詩格舊精魂，江海飄零亦主恩。仰叫虞舜一生淚，淚痕灑酒裏乾坤。
淚愁春雨又秋風，食頃難忘天子宮。詩客名高天寶事，寒儒忠義也英雄。

示姪色人

巫山雲雨夢中神，君子猶迷況小人。風流聖主馬嵬淚，龜鑑明明今日新。
濮上桑間唱哇音，風流年少寵尤深。世界三家村裏客，重華不識二妃吟。
所愛肉身食忠，心肝生鐵一天功。男兒死處色何屈，惱亂楊花甲帳風。

會裏僧與武具

說禪學道本無能，亂世英雄一錫僧。觀面當機若行令，鐵圍百億棒頭崩。
道人行腳又山居，江海風流篋笠漁。逆行沙門三尺劍，不看禪錄讀軍書。

因亂 二首 詩

請看凶徒大運籌，近臣左右妄優遊。蕙帳畫屏歌吹底，衆人日夜醉悠悠。
忠臣愁思在功勳，世上汗淋不識君。儒雅十年情寂寂，貴遊一夜醉醺醺。

示會裏俗徒警策 詩

前車覆處後車驚，警策忘時禍必生。半醉半醒夜遊客，烏啼月落夜三更。（烏一作鳥）
詩歌吟詠失全功，天上人間軍陣中。意舞醉歌休度日，飛揚跋扈爲君雄。

因亂寄坊城少納言 詩

當代管儒少納言，詩文家業動乾坤。英雄亂世好風月，長劍大弓酬主恩。

懺悔拔舌罪

言鋒殺戮幾多人，述偈題詩筆罵人。八裂七花舌頭罪，黃泉難免火車人。

亂裡 二首

國危家必有餘殃，佛界退身魔界場。臨時殺活禿僧令，君看忠臣松柏霜。
獨坐頻忙臘晦心，誰人忠義此時深。曉天一睡枕頭恨，朝日三竿夢裡身。（身一作吟）

關東御上洛

虜軍萬騎已東來，京洛凱歌一曲催。相坂關門征駒路，胡兒性命馬蹄埃。

姪坊頌以辱得法知識

舌頭古則長欺謾，日用折腰空對官。榮街世上善知識，姪坊兒女着金襴。

日用

日用正工夫，挽弓東射胡。殺佛殺祖令，波旬失却途。（一本挽作引三四句作佛魔混雜底邪法竟難扶）

祝聖

海內太平即現前，清風明月碧雲天。萬年七百高僧行，看看天龍正覺前。（一本即作便，僧作祖，正覺前作正覺禪。）

德政

賊元來不打家貧，孤獨財非萬國珍。信道禍元福所復，青銅十萬失靈神。（復一作伏。）

亂裡工夫

每朝高叫甚忙忙，受敵機先當八方。觀法坐禪休度日，但須勤跋扈飛揚。（甚一作太。）

泉涌寺雲龍院後小松院廟前菊

袞龍錦袖碧雲天，淑信宗門列祖禪。生鐵鑄成黃菊意，秋香未老玉塔前。（香一作光。）

日課

如法如說禿僧眼，經咒讀誦百千返。三百六十日課前，風雨雪月吟艷簡。

太平正工夫

天然胡亂正工夫，昨日聰明今日愚。宇宙陰晴任變化，一回斫額望天衢。

亂世正工夫

丈夫須具正見，諸妄想隨境現。馬問良馬麼，無人答此刀利劍。

少欲知足 二首

千口不多富貴愁，家貧甚苦一身稠。涓水鯉魚斗水望，明朝臘扇廣河流。（涓一作漏。）

果滿羅漢有三毒，純一願小欲知足。無衣貧病得相治，山堂一夜聞促織。

惡行衆生贊

行惡衆生與惡亡，善人壽命自然長。十人七八箇滅卻，長祝當今千歲昌。（長祝當今，一作今上帝皇。）

習心

一晝夜八億四千，念念不斷自現前。閻王不許詩風味，夜夜吟魂雪月天。

自戒

罪過彌天純藏主，世許宗門寶中主。說禪逼人詩格工，無量劫來惡道主。

愛念盟 二首

婆子侍慈明老師，婚姻腳下結紅絲。驢山春色三生睡，千歲海棠花一枝。恩愛紅塵誰人掃，娘生赤肉父子道。羅羅箇箇歡喜丸，携來直授釋迦老。

地獄 二首

十方世界盡乾坤，水火寒溫人命根。看看米穀閑田地，是衆生之地獄門。（田一作用。）

黃泉境界幾多勞，劍是樹頭山是刀。朝打三千暮八百，目前獄卒眼前牢。

冬夜螢火和州紀州兩國際山野充滿因禪詩二章以祝之云

螢火爭陽智與愚，衆生定業佛難扶。一天星斗皆朝北，帝業南方一點無。

滿山螢火諸人看，凶事南方也太難。可憐貴賤共自滅，廢址秋風冬夜寒。（太難一作大難。）

寒夜嘆雪山鳥

朝來公案晚來吟，求食忘巢前業深。晝夜人人雪山鳥，無間苦痛月沈沈。
嘆孤獨老人多欲
千口無多富貴時，青銅十萬讓阿誰。必定後生三惡道，老人何事不前知。
相對

二月涅槃寂滅辰，一刀兩斷也心身。不生不滅佛難得，花約有無相對春。(斷一作段)
亂中大嘗會

當今聖代百王蹤，玉體金剛平穩容。風吹不動五雲月，雪壓難摧萬歲松。
各見不動(一本作不同偈，示道心者與無道心者)

水流四念不同心，佛界魔宮亘古今。寒窓風雪梅花月，酒客弄盃詩客吟。(風雪梅花月，一作雪月五更燭)

敬上天子階下 二首

財寶米錢朝敵基，風流兒女莫相思。扶桑國裡安危苦，傍有忠臣心亂絲。
乾坤海內起烟塵，昨夜東風逼四隣。禍復美人身上事，榮華可悔馬嵬春。

善惡未嘗混，世為善者皆朋舜，而為惡者皆黨桀也。雉必為鷹所擊，鼠必為貓所咬，是皆天賦所前定也。一切衆生之歸佛善而免生死之淪沒者，亦猶如茲，因作偈以示衆云。(如一作若)

鷹雉鼠貓元自然，威音劫來舊因緣。照看華清殘月曉，明皇龜鑑馬嵬前。
過現未誰人了達，惡人沈淪善者脫。風流可愛公案圓，德山棒兮臨濟喝。
風流脂粉又紅粧，等妙如來奈斷腸。知是馬嵬泉下魄，離魂倩女謫扶桑。
身心不定假兼真，欲界衆生沈苦辛。愁夢三生六十劫，劫空無色馬嵬神。

君子財

詩人財寶是文章，儒雅乾坤日月長。窓外梅花吟興樂，腸寒雪月曉天霜。

貴人財

龐老棄錢誰舉揚，曾撞玉斗亦何妨。庭有梅花窓有月，鐵檠紙帳五更霜。

嘆日旗落地

錦旗日照動龍蛇，聖運春長救國家。化雷踢殺五逆輩，誓為朝廷作惡魔。

因亂

韓信昔年雲夢殃，人心真偽自然彰。安危不定箇時節，人畜難分荆棘牆。

美色傾城

幽王上古見今時，一笑花顏烽火姿。八熱八寒鬼窟裏，馬嵬辱并劫空悲。

山名金吾鞍馬毘沙門化身

鞍馬多聞赤面顏，利生接物現人間。開方便門真實相，業屬修羅名屬山。(開一作門)

婦人多欲

美人得寵美人珍，珠玉青鞋腳下塵。秋滿驪山宮樹月，榮華可悔馬嵬春。
東坡山谷同體

海內文章汝面前，誰知鍛煉獨天然。說法上堂法堂上，如來禪與祖師禪。
大應國師贊 妙勝寺

大唐國裏沒禪師，傳受明明東海兒。一天法窟妙勝寺，天澤宗風更有誰。

乙石御用人，向妙勝寺真前髮置賀頌。乙一作弟，用一作料。

三歲生年小女兒，終吾門老比丘尼。壽算娑裙綿延錦，櫻孩垂髮白如絲。

乙石御用人，待知客歸寺。乙一作弟，用一作料。

知客他行乙石愁，歸來日數在心頭。斫額天衢望晴雨，愛看昔日摘星樓。

贈山徒

顯密天台妙樂途，分明傳教大師徒。山猿叫落西樓月，七社靈神鎮帝都。

不殺生戒

李廣將軍一片心，多年石虎識情深。殺人端的不眨眼，敢忍燈前夜雨吟。

不偷盜戒

鵝鳥吞珠刑罰辛，分別曲直僞兼真。翠岩老漢眉毛話，保福豈非家裏人。分別一作分明。

不邪姪戒

姪坊年少也風流，曉吻抱持狂客愁。妄鬪枵蒲李群玉，名高虞舜辟陽侯。

不妄語戒

一字不說不信道，大藏經卷已落草。漚和元來截流機，怪哉父少而子老。少一作小。

不飲酒戒

痛飲三盃未濕唇，醉吟只慰樂天身。稜道者任念氣處，宣明酒伴也誰人。氣一作起。

南園殘菊

晚菊東籬衰色秋，南山且對意悠悠。三要三玄都不識，淵明吟興我風流。

高野大師入定

生身大日覺王孫，出入神話活路門。迦葉惠持長夜魄，秋風春雨月黃昏。

三毒

貪嗔根本自痴愚，人我無明名利徒。一箇無心閑道者，近年林下一人無。

不殺生戒

全體作用迷鬼眼，勝負修羅英雄念。望帝一聲月三更，殺人刀與活人劍。

不邪姪戒 三首

痛飲誰家樓上謳，少年一曲亂心頭。阿難逆行姪坊曉，妙解方便殘月秋。

逆行慈明婆子身，紅絲腳下結婚姻。一曲樓頭綠珠笛，可憐昔日趙王輪。結一作絆。

沙門何事行邪姪，血氣識情人我深。淫犯若能折情識，乾坤忽變作黃金。若一作者。

自讚毀他戒 三首

魔王眷屬沒商量，得失是非幾斷腸。前他後我如來願，前後工夫三會長。五逆聞雷臨濟訣，大悲大慈太親切。活人劍兮殺人刀，欲汚人滿口含血。誰共修歸正破邪，若非情識又何過。這般作略子細看，座主見知還作家。（一本作坐主見知還作處）

誹謗三寶戒

杜撰飯袋惡禪和，塞壑滿溝亡國家。歸依佛法僧檀越，閑看世間殘照斜。

人境懷古

境無心燈籠露柱，人辨別珠玉塊土。一夜五十年前吟，青塚殘月巫山雨。兩片皮復一具骨，烏蟲馬牛更魔佛。混沌未分暗昏昏，雲月知為誰風物。

倭國以譬喻作實

勘辨入邪毒氣深，元非君子小人心。暗認譬喻作實會，苦衣雲帶樂天吟。今時日用誰人道，超越佛祖是野老。這般輩法中畜生，胸襟愚不鋤荒草。

異類中行

異類馬牛中行途，洞曹瀉仰正工夫。愚昧學者誤領解，看來正是畜生徒。

井

高下互看打水輪，衲僧轉轉機輪。安禪出定清華曉，汲盡天邊月一輪。（水一作水）
吸盡西江公案圓，工夫不管溺深泉。不借寸繩千尺底，西來祖意為人禪。

山居

孤峯頂上出身途，十字街頭向背衢。空聞夜夜天涯雁，鄉信封書一字無。

示榮街徒

人家男女魔魅禪，室內招徒使悟玄。近代癩人願養叟，彌天罪過獨天然。

認譬作實（譬一作喻）

野老劫來日用令，私車公案誤晴陰。昨夜打窓零落葉，蕭蕭聽作雨聲吟。

山中開藥圃

要錢賣藥不修琴，度世工夫貪欲深。山堂夜雨風流榻，自絕松風閑道吟。

示邪姪僧

銀燭畫屏殘月曉，錦茵甲帳落花春。生身苦墮在火坑，花顏玉貌也何人。

少年道心老來失

五十年來大道心，來生未隔已忘今。朝得夕死立地佛，一旦迴心百煉金。（迴一作依）
失卻悟徹總閑事，去劫來劫又如此。金鑰正邪佛難分，聞說佛魔隔一紙。

題黃樂禮佛示榮街徒 二首

禮佛家風真作家，作家汝榮街誦訛。奪食驅牛成伎倆，米錢名利賺過他。
閻老面前尤苦哉，飯錢今日急還來。話頭古則商量價，棒喝邪師度世財。

臨濟曹洞座主各末後句 二首

大死底人心塊土，元來是燈籠露柱。變易分段只任他，新月黃昏五更雨。（變易一作編譯）
平生信施涅槃堂，暮往天台南岳朝。公道世間只病苦，貴人身上不曾饒。（一本涅槃堂作涅槃消，只作唯）

慧日有憎愛

一段多情栗棘愁，回光反照晦心頭。工夫長養不得意，動靜起居春又秋。（反一作返）
贊法然上人

法然傳聞活如來，安坐蓮花上品臺。教智者如尼入道，一枚起請最奇哉。

作家 二首

臨濟德山非作家，棒頭喝下任師誇。堪笑伎倆與鼻孔，照看高低日影斜。（低一作昇）
忍辱仙人常不輕，道心須是盡凡情。慙麼白淨真衲子，可勤觀法又看經。

傀儡

抽牽者即主人，公地水合成隨火風。一曲勾欄曲終後，本然大地忽爲空。

洛陽火後

寒灰充塞洛陽城，二月和花春草生。黃金宮殿依然在，勅下千秋萬國清。

嘲文章

人具畜生牛馬愚，詩文元地獄工夫。我慢邪慢情識苦，可嘆波旬親得途。
傑作詩文金玉聲，言言句句諸人驚。閻王豈許雅頌妙，鐵棒可恐鬼眼睛。（一本諸人作詩人，可

恐作應惶

元本無明（一本本作來）

法塵習着奈相思，李杜蘇黃音律詩。弓影客盃元字腳，生身入地獄如矢。

破譬喻示病僧

弓影膏盲在酒中，毒蛇影落害盃弓。楓林黃葉蜀江錦，染得心頭滿目紅。

利欲忘名

利欲農夫商女情，絕交美譽與芳聲。梅花雪月非我事，貪着米錢忘卻名。（非我事一作昔年事）
賣弄深藏貪欲心，心中密密要黃金。詩情禪味風流譽，秋思春愁雲雨吟。

耽色喪德

酒伴詩僧久絕交，獨吟月影滿松梢。楚臺愁夢是吾業，杜牧味清姪色嘲。（一本愁作秋，味作味）

偶作

患是衆生良藥訣，祖病當機臨濟喝。琴臺暮雲茂陵吟，五十年來相如渴。
我唯一息出入，日面月面忘左右。釋迦老師大覺尊，祖病治得用牛乳。
室內閑吟一盞燈，自然無道箇詩僧。愁人春興猶寒夜，袖裡花牋梅夢冰。

頌

暫時此地弄精魂，臨濟後身與祖門。美譽芳聲世間外，五雲天上月林孫。

元日賀官軍敗凶徒

狂雲集 下卷

元正先破豪，處處凱歌高。百萬朝廷卒，不能損一毛。

偶作

慧命微微懸一絲，分明臨濟正傳師。識情名利山林客，夜夜秋風枕上吹。(客一作害)
睡裏海棠春夢秋，明皇離思獨悠悠。三千宮女情難慰，更逐馬嵬泉下遊。(逐一作遂)

懷古

愛念愛思苦胸次，詩文忘卻無一字。唯有悟道無道心，今日猶愁沈生死。
十年溺愛失文章，非是行天然即忘翰墨。再論近年事，輪迴斷盡隔生腸。(非一作不)

警策

苦哉色愛太深時，忽忘卻文章與詩。不前知是自然福，猶喜風音慰所思。
夢熟巫山夜夜心，蘇黃李杜好詩吟。若將淫欲換風雅，價是無量萬兩金。

迷悟

無始無終我一心，不成佛性本來心。本來成佛佛妄語，衆生本來迷道心。
題點頭石訝虎丘祖師。

不信道石點頭，若點頭非石流。石有靈是妖怪，吾祖師老虎丘。
不行成佛。

天然之釋迦彌勒，六六元來三十六。達磨九年佛六年，成佛作祖盡精力。
示燒書籍僧(燒一作焚)。

始皇自然辨邪正，波旬餘殃如看掌。看看劫火洞然時，書籍金剛不壞住。
樹下石上茅廬，詩文疏鈔同居。欲焚囊中遺藁，先須忘腹中書。(遺一作道)

示耽名僧

腹中地獄成，無量劫識情野火燒不盡。春風草又生，
南北東西不可量。扶桑粟散國封疆，耽名愚鈍畜生道。望帝一聲聽斷腸，
金烏玉兔照籠中。百億須彌遍碧空，香水無邊四大海。畜生無始又無終。

示弄業文筆僧

苦樂愛憎影與身，寒溫喜怒境兼人。平生吟興黃泉路，地獄門前桃李春。
弔戰死兵。

偶作

赤面修羅血氣繁，惡聲震動破乾坤。鬪爭負時頭腦裂，無量億劫舊精魂。(爭一作諍)

心隨萬境轉

我本來迷道衆生，愚迷深故不知迷。縱雖無悟，若有道佛果天然立地成。

佛魔一紙

今日佛心猶未生，衆生界地獄先成。萬機萬境皆情識，轉處能幽劍戟城。
聖凡萬里隔鄉關，清淨沙門塵事間。殘雪殘梅窗外月，吟中猶劍樹刀山。
以姪欲換詩文。

狂雲集 下卷

衆寮及第大雄尊，著述佳名我命根。愁夢未修雲雨約，君恩猶喜費吟魂。

頌

忘卻萬端詩未忘，半生半死涅槃堂。黃泉路上此吟興，閻老宮前後悔腸。
看妙莊嚴王品

妙莊嚴昔日因緣，瞎禿道光輝。我前閻老不吟玉塔月，黃泉後悔碧雲天。

禮常不輕菩薩

記得昔年常不輕，可惶血氣衆生情。看看火宅腳跟下，滿目無間獄大城。跟一作痕

忍辱仙人

須成忍辱波羅密，是如來甚深秘密。心火燒盡菩提根，阿修羅王滅佛日。

圓悟大病

涅槃堂裡絕言詮，棒喝機關法座禪。睡裏花顏猶醉眼，春風斷腸海棠前。
巫山夜夜夢難驚，艷簡題詩對鐵檠。只爲檀郎呼小玉，風流可愛美人情。
狹路慈明色欲姪，庭前柏樹祖師心。惡魔臨濟正傳境，雲暗姮娥落玉簪。
娘生佛果已圓成，大病苦中無識情。小艷詩情人不曾，雞聲茅店月三更。

弔宗祐老僧

宗祐僧牛誰面門，本來心逼塞乾坤。獨向真前謹乞命，要須弔祐老幽魂。

和弔宗祐老僧頌

或作僧形或馬牛，曹溪滴水百川流。南山吟興東籬菊，花綻三玄三要秋。

題江口美人勾欄曲

見色聞聲吟興長，明心悟道沒商量。愁人不識普賢境，歌吹樽前總斷腸。一本三四句作愁人不識普賢處，洞山三頓德山禪。

行涌泉寺僧棒

八稜八尺倚長天，拈起向秋山面前。衲子當機拱手處，洞山三頓德山棒。

偶作

餓鬼苦多也畜生，人家魔魅長凡情。飢渴病苦五噎患，邪師知識野狐精。

鳩鹿狐懺悔

麋鹿生涯猛狖愁，鳩因姪欲苦心頭。四時難愕此愁夢，一枕清風夜夜秋。清一作西

除夜

金吾除夜殺山名，從此黃泉幾路程。太平天子東西穩，九五青雲無客星。殺一作死

圓相

誰參馮仰一宗禪，圓頂沙門心豈圓。剃頭外道長情識，定與魔王結惡緣。
生死輪回恰似環，人人這末後牢關。寸步不移腳跟下，生身墮二鐵圍山。腳跟下，一作腳痕不
圓成公案愛風流，逆行機關馮仰籌。愁殺樽前夜遊客，美人一曲玉樓謳。

示禮佛祖禱福力僧

羈客恨多天地人，愚哉鬼窟舊精神。元來諸法因緣起，風月沈吟一箇貧。因一作從。

食籍

飯緣食籍聊茶湯，竹縛菊籬梅補牆。人間世諦盡餓死，地獄遠離安樂長。

寄近侍美妾

淫亂天然愛少年，風流清宴對花前。肥似玉環瘦飛燕，絕交臨濟正傳禪。

送僧行脚

參禪學道扣玄人，世界蒲鞋腳下塵。象骨老師三九旨，常成飯頭苦心身。

見桃花圖

見處風流悟道心，桃花一朵價千金。瑤池王母春風面，我約愁人雲雨吟。

開陣玄妙法戰場，宗門議論老禪場。衲僧遊戲諸三昧，拄杖腰包桃李場。

香嚴擊竹

對畫忽然盡識情，道人龜鑑太分明。娘生佛見南陽境，斷腸黃陵夜雨聲。

携來苜蓿動風塵，看看聞聲悟道新。半夜千竿脩竹雨，南陽塔下弄精神。

久響香嚴一擊聲，可憐悟道發佳名。蕭蕭逆耳竹扉雨，滴盡南陽塔下情。

普明國師破百丈大智禪師法

破夏文殊宗旨動衲僧，三昧似商君。祖師大用現前境，南嶽巫山一片雲。

靈山徹翁和尚百年忌

僧運酬恩妙勝薪，靈山昔日涅槃辰。二千四百年前境，梅雨流紅五月春。
癩兒牽伴出人前，魔魅人家常說禪。龍寶封疆幸滅卻，靈山記莠瞎驢邊。

陳蒲鞋 八首

老禪本鐵眼銅睛，不是北堂慈愛情。天下衲僧腳跟下，宗門潤色綠蒲青。（跟一作痕）

唯有宗門零落愁，錯來末法幾禪流。春風桃李吟無酒，尊宿榮華蒲葉秋。

黃衣尊宿事如何，不是當機信手拏。三家村裡野老業，棒喝商量豈作家。（一本二三四句作作略猶如信手拏，天下衲僧識師否，岩頭船子着風篔。）

元來黃檗下之尊，臨濟師兄不用論。佛法南方今落地，北堂寂莫苦吟魂。

真正工夫任變通，達磨建立佛心宗。雲起南山北山雨，夜來吹過樹頭風。

堪笑米山無米錢，誰參尊宿織蒲禪。衆生五欲八風起，看看正邪今現前。

說道談禪長利名，工夫亂裏築愁城。門闔空折韶陽腳，折得江湖門弟情。

無米米山下空，宗門玄要老禪翁。七寶莊嚴之富貴，平生冰雪又寒風。

歌林紹休侍者相攸構居扁曰傳正因作偈以為證云

宗門滅卻法筵開，狹路慈明顛倒來。牆外自然樵客迹，風流可愛斷岸梅。

再來隔生即忘

講經大士喚爲誰，彌勒當來之導師。爐韜鈍鐵出生鐵，利劍鈍刀鐵不知。

自然外道

大道廢時人道立，離出智慧義深入。管絃歌吹人倫能，風雨世間之音律。聰明外道本無知，精進道心期幾時。天然無釋迦彌勒，萬卷書經一首詩。

地獄

三界無安，猶如火宅。箇主人公，瑞岩應諾。

岩頭和尚

名風流面蠻胡，胡鬚黑也赤鬚。舌頭絕勝文殊，腳下踏斷道儒。天下衲僧癡愚，邪法而今難扶。象骨老師小巫，臨濟渡子同途。着着作樣作模，頭頭入細入粗。橫棹一撐江湖，江湖議論區區。
(粗一作蠹)

確頌曰

世間種種齏公圖，道伴知音一箇無。夜雨篷窓江海燭，宗門零落盡工夫。

學林宗參庵主水葬

參禪學道鬧忽忽，六十年來任變通。流水千江機輪轉，閻浮樹下月如弓。

題圓悟大師投機頌後

新題小範一章詩，詩句工夫說向誰。殘生白髮猶姪色，鬼眼闍魔決是非。

四睡圖

凡聖同居何似生，披毛作佛又分明。今宵極睡清風枕，空劫以來松有聲。
(又一作也)

運庵還松源衣留頂相

這三轉痛處針錐，看看宗門句裏機。爭奈石溪肩上下，拾來脫屣號傳衣。

弟子癖

從參臨濟大人禪，元字腳頭心念前。即今若作我門客，野老風流美少年。

自贊

分明畫出許渾圖，吟然徑山天澤鬚。嗜譽求名不愛利，風流寂莫一寒儒。

臨濟曹洞善知識，貪欲熾盛(貪一作貧)

米錢膝下露堂堂，辛苦沈淪萬劫腸。賊智不妨過君子，德山臨濟沒商量。

癖

臨濟德山棒喝禪，睦州蒲葉齏公船。左傳蠟屐一時忘，不是和蟻我愛錢。
(忘一作志)

東坡像

竺土釋迦文殊師，即今蘇軾更看誰。黃龍禪味舌頭上，萬象森羅文與詩。
(殊一作老)

偶作

臨濟門派誰正傳，風流可愛少年前。濁醪一盞詩千首，自笑禪僧不識禪。

嫌抹香

作家手段誰商量，說道談禪舌更長。純老天然惡殊勝，暗襲鼻孔佛前香。

病僧與五辛

病僧大苦發傷風，死脈頻頻命欲終。如來新病用牛乳，莫忘凡身藥草葱。

示久參徒

看經看教無間業，應庵但許白淨業。參禪學道閑話頭，可懼身口意三業。

薄水

但看江海薄水池，不管人人身上危。可憐極苦目前急，迷道衆生終不知。(身一作心)

金春座者歌

唱得雲門王老禪，朝遊東土暮西天。震旦徑山上堂後，建仁擊鼓法堂前。(東土一作東上)

岐岳和尚龍寶山住院時，請御所喝食。於看雲亭夜酒宴，因一休和尚相看。岐岳

問一休和尚曰：汝於老僧境界，知耶不知？答曰：知。問曰：試舉看。答曰：茂陵多病後，猶

愛卓文君。岳大笑絕倒，隨後打曰：請爲老僧題。無住勝，勝一作榜。休便題曰：

龍寶禪翁活眼睛，孤明歷歷藟直名。黃金詞賦文君恨，師笑茂陵空薄情。

高亭腸斷夜參僧，歌舞花前酒若澗。長老雲門塔下逆，真前雲雨五更燈。

畫梅(一本作畫梅)

目前春樹屬孤山，上苑一枝無客攀。七寶青黃礪紅白，淡烟疎雨祖師關。

自贊

大機大用總絃膠，如法作家清宴餽。文君絞酒相如琴，終奈薄情無賴嘲。(一本，絞作絞，又琴作瑟)

文章禪話不知真，未得道流分主賓。慚愧永劫拔苦業，筆頭罵詈一天人。(苦一作群)

傍若無人閑逸心，奈何床下法塵深。夢聞銀燭繡簾月，白日青天笑朗吟。

純老佳名發海東，天源派脈截流通。德山臨濟在何處，歌吹夢聞殘曉鐘。(鐘一作鏡)

脫鱗鯉魚，庖中得活

活潑潑時池水清，怪哉端的死中生。飛潛天池祇僧眼，雲暗龍門點額情。

應無所住而生其心

祖師禪不是如來，接物利生尤苦哉。明歷歷金剛正體，百花春到爲誰開。

警念起所

公案工夫暮與朝，山堂夜夜雨蕭蕭。地獄猛火百萬劫，滿腹詩情幾日消。

不嫌念起所

平生贏得藟直名，信口言詮群衆驚。自讚毀他長情識，乾坤江海我詩情。(讚一作贊)

腳下紅絲妻子盟，驪山私語約三生。良宵共愛夢闌月，照看一聲望帝情。

心念所作

三十年來江海情，空吟野水釣船橫。偶然我負子陵業，興在詩非勳絕名。

末後涅槃堂懺悔

風甜氣象頌兼詩，乘興邪慢吟燃髭。惡魔內外託吾筆，猛火獄中無出期。(韻一作音)

飽簡飽詩三十年，虛名天澤正傳禪。吟身半夜與燈瘦，雲月風流白髮前。

童子南詢圖

狂雲集 下卷

知識華嚴五十三美人焦熱抱持談南方佛法非吾事腸斷風流童子參(焦一作勝)

紹固喝食

四歲女兒歌舞前約深難警舊因緣棄恩入無為手段座主作家誰是禪

贊欽山禪師

佳名勳絕利貪稠茶店美人誰好仇爭識洞山下尊宿慈明狹路好風流

上堂茶話作家禪點檢將來新婦禪錦帳香囊風起臭洞山佛法是何禪

濟家純老機生鐵一條活路途與轍雪峰岩頭無眼睛千歲達磨宗敗闕

尿床鬼子大難心定老當機恩力深夜雨燈前都即忘風流茶店舊時吟(都一作潭)

辭世

今宵拭淚涅槃堂伎倆盡時前後忘誰奏還鄉真一曲綠珠吹恨笛聲長

嘆龍翔門派零落

扶桑國裏沒禪師東海兒孫更有誰今日窮途無限淚他時吾道竟何之

東海兒孫誰正師正邪不辨盡偏知狂雲身上白屎臭飽簡封書小飽詩

或儒者或教家僧不管人天大眾憎飛來蝙蝠暮堂裏怪長無明滅法燈

渡江達磨

去去來來隨意行乾坤萬里俗塵生西天此土姓名重腳底腳頭蘆葉輕

三界

來往生靈六道街修羅闍諍沒生涯人間未得諸天樂闍滅娑婆事事乖
餓鬼畜生無菩提劫空法習徹吾臍無色衆生淚如雨月沈望帝一聲西
威音那畔本去劫彌勒當來又來劫依草附木舊精魂可憐三生六十劫(去劫一作空劫)
須參最上乘之禪等妙如來豈自然三界無安猶火宅三車不識在門前

示南坊 禎禎(一作偵)

男色與盡對妻淫狹路慈明逆行心容易說禪能忌口任他雲雨楚臺吟

制戒

貪看少年風流風流是我好仇悔錯開為人口今後誓縮舌頭(貪看一作貪着)

泉堦衆絕交

耽利好名天澤孫靈光失卻大燈門梨冠瓜屨人疑念伎倆當機報佛恩

參學之徒無道心紅紫朱色似鎗金忠言可逆人人耳牛馬面前空鼓琴(紫一作絲)

松源和尚

松源靈隱老師禪破法攀條省數錢囊中我沒半文蓋狂客江山三十年(蓄一作畜)

巡堂合掌又燒香豎拂拈鎚坐木床臨濟正傳也何處一休東海斷愁腸

拾馬糞修斑竹

煨芋懶殘舊話頭不求名利太風流相思無隙此君雨拭淚獨吟湘水秋(殘一作山)

看看我養鳳凰心燕雀鳩鴉山野禽臨濟栽松一休竹三門境致後人吟

對臨濟書像

臨濟宗門誰正傳，三玄三要瞎驢邊。夢聞老衲闔中月，夜夜風流爛醉前。

閻浮樹

閻浮樹逼塞乾坤，葉葉枝枝我脚跟。太極梅開紙窗外，暗香疎影月黃昏。

剪妙勝寺竹木

在官忘却不容針，妙勝封疆剪樹林。立破商君胡亂法，去來沒跡一身吟。

退酬恩庵

雲水江山我脚跟，殿堂幸有一乾坤。常住物即私車馬，酬恩塔主不知恩。（即一作便）

禪門寶訓云：圓悟謂妙喜曰：大凡舉措當謹，始終謹，終如始，則無敗事。故曰：無不有。

初，鮮克有終，無一作靡。昔晦堂老叔曰：黃檗勝和尚亦奇衲子，但晚年謬耳，觀其始得，不謂之賢云云。因作偈題後云。

鐘樓讚兮猛虎途，衲子金言臨濟徒。擡擲與奪辨邪正，諸祖當機非一模。

晦堂老痛處針錐，隱去彌彰惟勝機。明眼非元來即是，一休是正本來非。

但歸依積翠庵，禪慚愧狂雲名利前。一夕一朝日月蝕，終分明白日青天。

贊杜牧

杜書記獨朗天然，參得正傳臨濟禪。儒雅家風無一點，詩情媚色紫雲前。（一本參得作參禪，儒雅作儒邪，紫雲作紫雲）

戒參玄僧名利

迷道衆生劫外愚，人人淚不識窮途。諛官只願佳名發，眞菩提心一點無。

戒參玄僧智慧

大智元來迷道愚，未聞小智菩提扶。一千公案繫驢轅，學者江湖飯袋徒。

毀破曹洞惡見

曹洞今時無分別，與臨濟受用遙別。野老百姓眞家風，曹洞臨濟受用別。

畫 三首

參禪九到又三登，明白洞然無愛憎。橋上不通名利路，羨見一錫一閑僧。（見一作看）

老漢知從何處來，高山境與塔崔嵬。水草心頭瘦牛體，應身行腳出天台。

瀉山來也目前牛，戴角披毛僧一頭。異類如甘一身靜，三家村裏也風流。（甘一作耳）

四睡圖

老禪饒舌笑中愁，虎尾孺來跨虎頭。月元不識寒山意，夢愕清光萬里秋。

聞聲悟道見色明心，雲門拈云：觀世音菩薩將錢來買胡餅，放下手曰：元來是餛飩頭。

垂示韶陽三句禪，聞聲見色話頭圓。胡餅餛飩誰買得，觀音三十二文錢。（一本作三十三文錢）

雲門拈見色聞聲，衲子機鋒折識情。信口道着底食籍，念頭起處太分明。

贊臨濟和尚

喝喝喝喝當機得，殺活惡魔鬼眼睛。明明如日月。

杜牧

誰記慈明老漢婆，無能懶性甕吞蛇。工夫雪月吟魂冷，閉唱桑間濮上歌。（桑間一作桑門）
宗門活句阿房宮，六國興亡六國風。筆海詞林何所似，青天萬里月方中。

洞山三頓棒

這棒頭宗門大功，慈明之子是黃龍。明皇不識風流道，今夜馬嵬千歲風。
遭人罵辱長嗔情，是即真迷道衆生。無始無終黑山下，無明濁酒幾時醒。

扶起東福寺荒廢，蓋因美少年之舊交。（甲子十二）一本作三。

看看慈楊禪正傳，誰來純老面門前。宗門潤色風流道，舊約難忘五十年。

大慈聖一是開山，建立魔宮救五山。東福分派南禪寺，千歲猶輝慧日山。

慈楊塔

是不平生好境痕，任他鷄足月黃昏。誰氏風流我盟約，馬嵬青塚舊精魂。（一本此一首無）

大慈武庫曰：有俗士投演出家，自曰捨緣。演曰：何謂捨緣？士曰：有妻子捨之，謂之捨

緣。演曰：我也有箇老婆，還信否？士默然。演乃頌曰：我有箇老婆，出世無人見，晝夜共

一處，自然有方便。云云，余亦作頌記之。

愛孫愛子對妻歌，滅却魔宮猶入魔。貪着風流年少境，自然無一點滷和。

有僧眼白有妻青，對客唯言我薄情。花前酌盡一樽酒，半醉夜深猶半醒。（一本二有作在）

醉鄉桑屋我家山，燭影三更對玉顏。夜雨無愁歌吹海，姮娥須是墮人間。

觀法看經真作家，黃衣棒叩木床斜。嘉直元是我家業，女色多情加男色。（一本男色作勇巴）

讀冷齋夜話，有褒禪山石崖僧之一件事，感而題之。

佛印重荷一百夫，佳名道價滿江湖。百崖一箇野僧意，佛法南方一點無。

玉帶笑欺如土泥，路頭喧吠犬兼雞。天下老禪奈慚媿，獄中天澤世皆乖。

百丈絕食無人學，藥山兩粥黃菜麥。但居門外弊衣徒，金襴道光開法席。（黃菜一作黃桑）

德禪塔主自贊

平生爛醉倒金樽，老後住持人事繁。莫待榮華竟成苦，江山水宿又風餐。（一本人事作塵事，風

餐作風噓）

爲惡知識警策

因憶玄都千樹桃，劉郎醉語許多豪。利名知識極驕功，堯帝土塔三尺高。（一本驕功作驕巧，土

塔作玉塔）

吸美人嬌水

蜜啓自慚私語盟，風流吟罷約三生。生身墮在生畜道，超越瀉山戴角情。（一本蜜作密，超越作

絕勝）

杜牧嘉直是我徒，狂雲邪法甚難扶。爲人輕賤滅罪業，外道波旬幾失途。

臨濟兒孫不識禪，正傳真箇瞎驢邊。雲雨三生六十劫，秋風一夜百千年。

盲女森侍者，情愛甚厚，將絕食殞命，愁苦之餘，作偈言之。

百丈鋤頭信施消，飯錢闍老不曾饒。盲女詭歌笑樓子，黃泉淚雨滴蕭蕭。看看涅槃堂裡禪，昔年百丈鏤頭邊。夜遊爛醉畫屏底，闍老面前奈飯錢。

森公乘輿

鸞輿盲女屢春遊，鬱鬱胸襟好慰愁。遮莫衆生之輕賤，愛見森也美風流。見一作看。

淫水

夢迷上苑美人森，枕上梅花花信心。滿口清香清淺水，黃昏月色奈新吟。

美人陰有水仙花香

楚臺應望更應攀，半夜玉床愁夢間。花綻一莖梅樹下，凌波仙子遠腰間。遠一作遠。

喚我手作森手

我手何似森手，自信公風流主。發病治玉莖萌，且喜我會裡衆。

聞鴉有省

豪機曠志識情心，二十年前在卽今。鴉笑出塵羅漢果，奈何日影玉顏吟。

九月朔森侍者，借紙衣於村僧禦寒，瀟灑可愛，作偈言之。

良宵風月亂心頭，何奈相思身上秋。秋霧朝雲獨瀟灑，野僧紙袖也風流。

看森美人午睡

一代風流之美人，詭歌清宴曲尤新。新吟腸斷花顏靨，天寶海棠森樹春。

文明二年仲冬十四日，遊藥師堂聽盲女詭歌，因作偈記之。

優遊且喜藥師堂，毒氣便便是我腸。愧慚不管雪霜髮，吟盡嚴寒秋點長。髮一作髮。

余寓薪園小舍有年，森侍者聞余風彩，既有嚮慕之志，余亦知焉。然因循至今，辛卯之春，邂逅于墨江，問以素志，則諾而應。因作小詩述往日間何闊之懷，且記今日來不束之喜云。一本，既作已，亦作又。墨江作墨吉，記作述。

憶昔薪園去住時，王孫美譽聽相思。多年舊約卽忘後，猶愛玉塔新月姿。一本，去住作居住，猶作更。

約彌勒下生

盲森夜夜伴吟身，被底鴛鴦私語新。新約慈尊三會曉，本居古佛萬般春。木凋葉落更回春，長綠生花舊約新。森也深恩若忘却，無量億劫畜生身。

天澤七世東海狂雲老衲純一休

狂雲集 下卷 終

大正九年十月十二日印刷
大正九年十月十五日發行
大正十一年六月十七日再版發行

著者權所有
((非賣品))

編輯者兼

右代表者

印刷者

印刷所

【國譯禪宗叢書】 第九卷

東京市神田區錦町一丁目十六番地

國譯禪宗叢書刊行會

宮下軍平

東京市神田區錦町三丁目一番地

中島藤太郎

東京市神田區錦町三丁目一番地

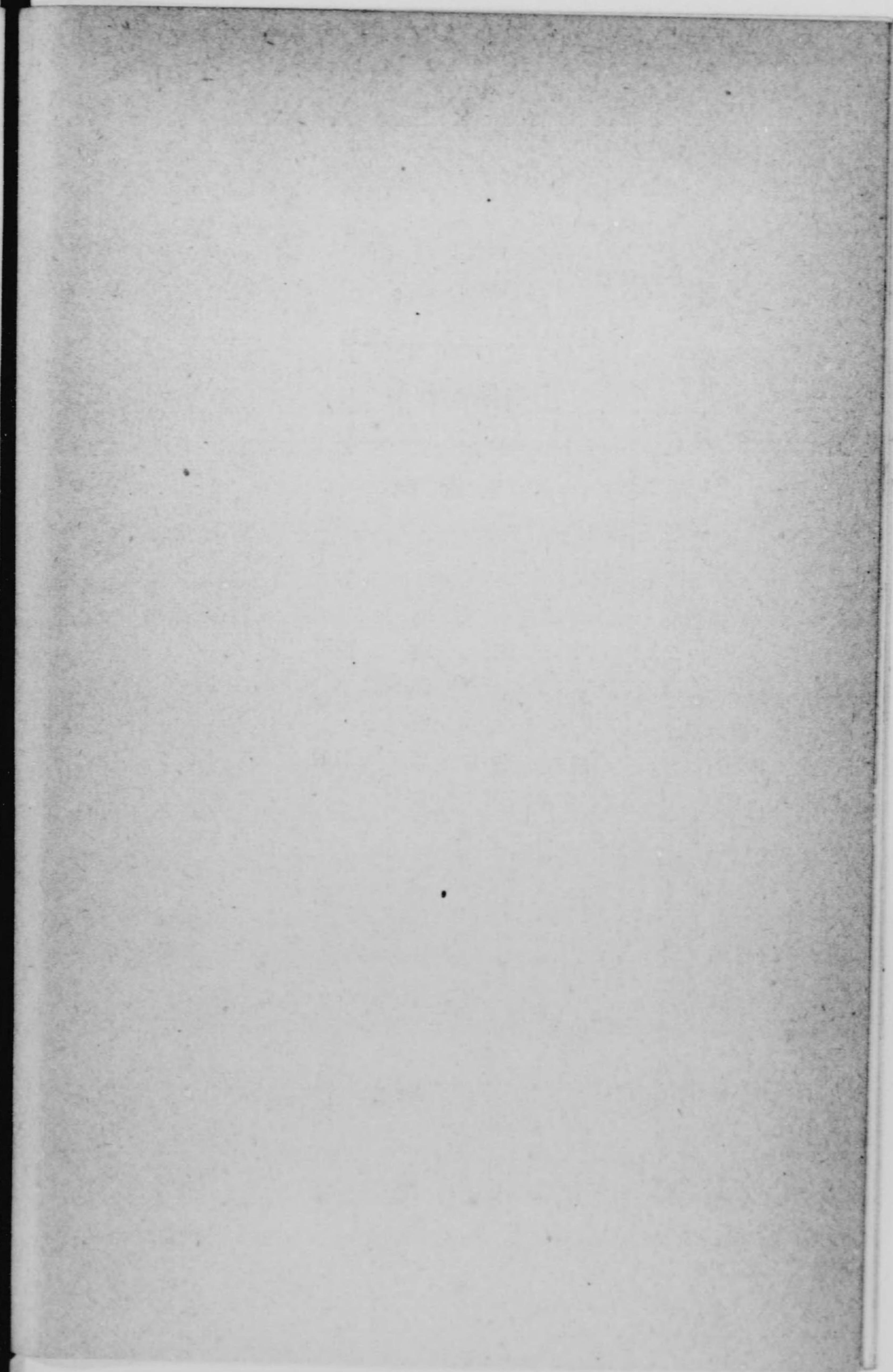
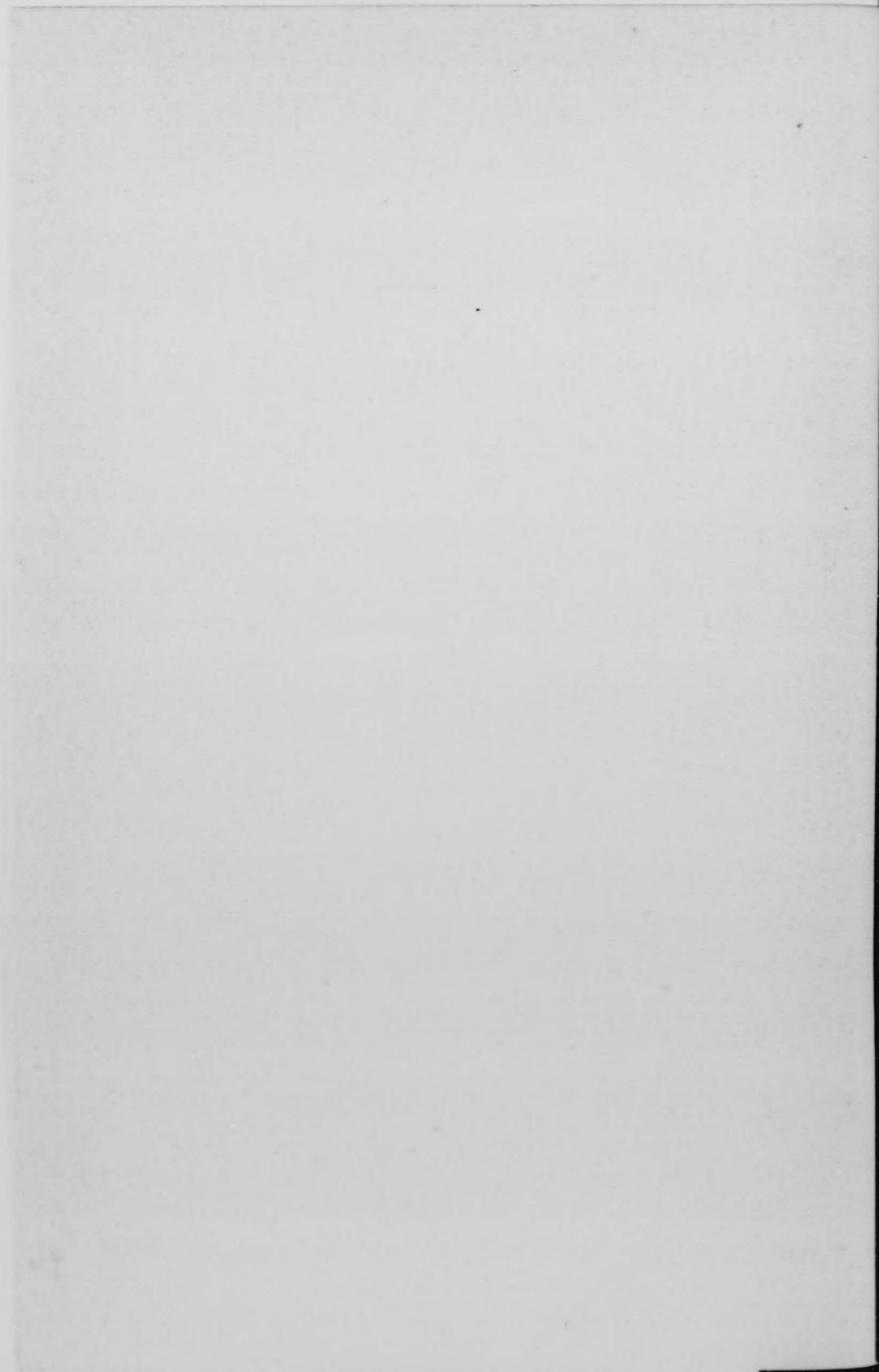
神田印刷所

發行所

東京市神田區錦町一丁目十六番地(二松堂書店內)

國譯禪宗叢書刊行會

電話神田二四七八番
振替東京四六〇一六番



379
120

國譯禪
宗叢書
所成會

終